

釧路工業高等専門学校	電子情報システム工学専攻	開講年度	令和05年度(2023年度)
------------	--------------	------	----------------

学科到達目標

学習・教育到達目標

【専攻科課程】(高い課題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者)

A:(技術者として社会に貢献するために)人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える応用能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する応用能力及び技術者としての倫理観を身につけている。

B:(地域・社会に貢献するために)地域の産業や社会の抱える課題に対処できる応用能力を身につけている。

C:(多様な技術的課題を解決できるように)工学の幅広い基礎知識(数学、自然科学、情報技術、設計・システム系、情報・理論系、材料・バイオ系、力学系、社会技術系の基礎工学)を修得し、それらを応用する能力を身につけている。

D:技術者として自己の基盤となる専門分野の知識(専門応用系、工学実験系、問題解決系、実務対応系)を修得し、それを応用する能力を身につけている。

E:多様な技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、その計画を実行して課題を解決するデザイン能力を身につけている。さらに、チームワークで仕事をする能力を身につけている。

F:文章、口頭、図表や視覚的な方法によって、効果的にコミュニケーションができる応用能力を身につけている。すなわち、日本語で論理的に記述し討論する能力、および簡単な論理的文章を英語で記述し、英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につけている。

G:(技術の進展や社会の変化に対応できるように)日本語だけではなく英語も使用して、継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につけている。

【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科	開講年次	共通・学科	専門・一般	科目名	単位数	実務経験のある教員名
電子情報システム工学専攻	専1年	共通	専門	インターンシップⅠ	1	
電子情報システム工学専攻	専1年	共通	専門	インターンシップⅡ	1	
電子情報システム工学専攻	専1年	共通	専門	インターンシップⅢ	2	
電子情報システム工学専攻	専2年	共通	専門	信号画像処理Ⅰ	2	浅水 仁
電子情報システム工学専攻	専1年	学科	専門	プラズマ工学	2	佐々木 敦
電子情報システム工学専攻	専1年	学科	専門	デジタル通信概論	2	山形 文啓
電子情報システム工学専攻	専1年	学科	専門	計測工学特論	2	松本 和健

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分		
					専1年				専2年							
					前	後	前	後	前	後	前	後				
一般	必修	総合英語Ⅰ	学修単位	2	2										林 幸利	
一般	選択	総合英語Ⅱ	学修単位	2			2								林 幸利	
一般	選択	統計学	学修単位	2	2										澤柳 博文, 山崎 俊博	
一般	選択	応用解析学	学修単位	2			2								池田 盛一, 山崎 俊博	
一般	選択	化学と人間生活	学修単位	2			2								佐藤 潤	
一般	選択	海外語学研修Ⅰ	学修単位	1	集中講義								中島 陽子			
一般	選択	海外語学研修Ⅱ	学修単位	1	集中講義								中島 陽子			
専門	必修	システム工学	学修単位	2	2										谷 亮尚	
専門	選択	制御工学特論	学修単位	2	2										千田 和範	

専門	選択	品質工学	0007	学修単位	2	2												渡邊 聖司	
専門	選択	コンピュータ設計工学	0008	学修単位	2	2												高橋 剛	
専門	選択	多変量解析	0009	学修単位	2			2										天元 宏	
専門	選択	ヒューマンコンピュータインタラクション概論	0010	学修単位	2			2										谷 堯尚	
専門	選択	ロボティクス	0011	学修単位	2			2										小谷 齊之	
専門	選択	情報数学特論	0012	学修単位	2	2												本間 宏利	
専門	選択	設計支援システム	0013	学修単位	2			2										千葉 忠弘	
専門	選択	アドバンストプログラミング	0014	学修単位	2	2												柳川 和徳	
専門	選択	アドバンストコンピューティング	0015	学修単位	2			2										林 裕樹	
専門	選択	デザインプロポーザル	0016	学修単位	2	2												平澤 宙之	
専門	必修	電子情報システム工学特別ゼミナールI	0017	学修単位	1			2										高 義礼	
専門	必修	創造特別実験 I	0018	学修単位	1			3										前田 貴章, 三敏司, 森 彰治, 佐藤 大槻, 香子 中井, 陽子 千葉, 忠弘	
専門	必修	電子情報システム工学特別研究 I	0019	学修単位	8	8		8										高 義礼	
専門	必修	インターンシップ I	0020	学修単位	1	集中講義										佐川 正人, 高橋 剛			
専門	選択	プラズマ工学	0021	学修単位	2			2										佐々木 敦	
専門	選択	デジタル通信概論	0022	学修単位	2			2										山形 文啓	
専門	選択	量子統計工学	0023	学修単位	2	2												井戸川 稔之介	
専門	選択	計測工学特論	0024	学修単位	2	2												松本 和健	
専門	選択	アルゴリズム特論	0025	学修単位	2			2										本間 宏利	
専門	選択	インターンシップ II	0026	学修単位	1	集中講義										佐川 正人, 高橋 剛			
専門	選択	科学技術表現技法	0028	学修単位	2			2										山田 昌尚	
専門	選択	インターンシップ III	0029	学修単位	2	集中講義										佐川 正人, 高橋 剛			
専門	選択	量子力学概論	0030		2	4												伊藤 光樹	
専門		数値計算特論	0031	学習単位	2			0										赤堀 匡俊	
専門	選択	海外異文化理解研修I	0034	学修単位	1	集中講義										中島 陽子			
専門	選択	海外異文化理解研修II	0035	学修単位	1	集中講義										中島 陽子			
一般	必修	技術者倫理	0031	学修単位	2						2							高橋 剛, 川村 淳浩, 細見 佳子	
一般	選択	物理学特論	0032	学修単位	2									2				梅津 裕志	
一般	必修	日本語表現技法	0043	学修単位	2						2							小田島 本有	
一般	選択	海外語学研修I	0044	学修単位	1													中島 陽子	
一般	選択	海外語学研修II	0045	学修単位	1													中島 陽子	
専門	選択	人工知能特論	0030	学修単位	2						2							天元 宏	

専門	選択	ソフトコンピューティング特論	0033	学修単位	2					2			高木 敏幸
専門	選択	信号画像処理 I	0034	学修単位	2					2			浅水 仁
専門	必修	電子情報システム工学特別ゼミナールII	0035	学修単位	1					2			高 義礼
専門	必修	電子情報システム工学特別演習	0036	学修単位	1							4	天元 宏 林 裕 樹 土 江 田 織 枝 中 島 陽子 佐藤 英 高橋 晃 渡 駿 邊 柳川 和 徳 本 間 宏 利 規 典 行 木 鈴 未 央 佐 川 正 人
専門	必修	創造特別実験 II	0037	学修単位	1					3			中島 陽子 佐藤 英樹 大前 洸斗
専門	必修	電子情報システム工学特別研究 II	0038	学修単位	8					8		8	高 義礼
専門	選択	エネルギー変換工学各論	0039	学修単位	2					2			佐川 正人
専門	選択	アナログ高周波回路設計	0040	学修単位	2					2			高 義礼
専門	選択	ネットワークデザイン	0041	学修単位	2					2			高橋 晃
専門	選択	ソフトウェア工学特論	0042	学修単位	2					2			
専門	選択	海外異文化理解研修I	0046	学修単位	1					集中講義			中島 陽子
専門	選択	海外異文化理解研修II	0047	学修単位	1					集中講義			中島 陽子

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	総合英語 I	
科目基礎情報							
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	教科書: eラーニングで身につける初級英語・基礎、eラーニングで身につける中級英語・前編、eラーニングで身につける中級英語・後編 参考書: TOEIC®テスト新公式問題集 (国際ビジネスコミュニケーション協会) : TOEIC(R)テスト 基礎固めプリント 文法編 (小学館) : 一億人の英文法 (東進ブックス) : TOEIC Test 「正解」が見える (講談社インターナショナル)						
担当教員	林 幸利						
到達目標							
TOEICテストで450点以上のスコアをマークできるレベルの英語力を獲得し、それを随時発揮できる。そのために、基礎的なところから標準的なところまでの語彙や文法事項に習熟し、さらにリスニングの練習を並行して行うことで、事柄の概要を聞き取ったり読み取ったりする能力を身につけるとともに、伝えたい事柄を簡潔に書いたり話したりする能力を身につけ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	TOEICテストで500点以上のスコアを随時マークできるレベルの英語力を獲得する。		TOEICテストで450点以上のスコアをマークできるレベルの英語力を獲得する。		TOEICテストで350点未満のスコアしかマークできない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 F JABEE f							
教育方法等							
概要	近年、TOEIC®テストの重要性が益々増してきている。TOEIC®テストというのは、リスニング力と速読力を重視した実践的な英語コミュニケーション能力を計る試験である。本授業ではテキストのリスニング問題、リーディング問題、文法問題等を通して、TOEIC®テストに対応できる英語力の養成を目指す。						
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業の教材はeラーニング教材となっているので、受講者は個別にホストサーバにアクセスして各個人のペースで学習していくことになる。</li> <li>・「初級英語・基礎」「中級英語・前編」「中級英語・後編」の3つの教材はそれぞれ、「本科 Lesson」、「重要ポイント復習」、「リスニング&amp;スピーキング」の3つのパートに分かれている。それらの設問を正解して徐々にステップを習熟していくことで、英語力の基礎となる語彙力、基本文法の理解、リスニングの力を向上させていく。</li> <li>・成績評価については、校内で年に1回実施する英語検定準2級レベルの試験(通称「校内英検」)に合格(ただし、TOEIC®テスト(IPテストを含む)で400点以上、英語検定準2級1次試験合格以上、工業英語検定3級合格以上、のいずれかの条件を満たしている場合は、この試験は免除する)した上で、eラーニング教材のうち、「初級・基礎」の「本科 Lesson」と「重要ポイント復習」、「中級・前編」のすべて、それに「中級・後編」の「本科 Lesson」と「重要ポイント復習」を完了させ、さらに期末試験(Eランの学習内容を用いたウェブテスト)で60点以上であれば合格とする。そしてこの期末試験の得点が最終評価となる。期末試験の再試験は60点以上で合格とする。</li> <li>・関連科目は、「5年英語コミュニケーション」である。</li> </ul>						
注意点	eラーニング教材を完了させるためには、合計45~70時間程度を要する。本授業は学修単位であるから、15回の授業時間だけでは足りない分は、放課後等に自宅や校内のパソコンまたはスマホ等を利用して、自学自習の形で完了させてもらいたい。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス				
		2週	eラーニングで身につける初級英語・基礎	各設問を的確に正解できる。			
		3週	eラーニングで身につける初級英語・基礎	各設問を的確に正解できる。			
		4週	eラーニングで身につける初級英語・基礎	各設問を的確に正解できる。			
		5週	eラーニングで身につける中級英語・前編	各設問を的確に正解できる。			
		6週	eラーニングで身につける中級英語・前編	各設問を的確に正解できる。			
		7週	eラーニングで身につける中級英語・前編	各設問を的確に正解できる。			
		8週	eラーニングで身につける中級英語・前編	各設問を的確に正解できる。			
	2ndQ	9週	eラーニングで身につける中級英語・前編	各設問を的確に正解できる。			
		10週	eラーニングで身につける中級英語・前編	各設問を的確に正解できる。			
		11週	eラーニングで身につける中級英語・前編	各設問を的確に正解できる。			
		12週	eラーニングで身につける中級英語・後編	各設問を的確に正解できる。			
		13週	eラーニングで身につける中級英語・後編	各設問を的確に正解できる。			
		14週	eラーニングで身につける中級英語・後編	各設問を的確に正解できる。			
		15週	eラーニングで身につける中級英語・後編	各設問を的確に正解できる。			
		16週	前期期末試験を実施する				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100

基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	総合英語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0002		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: Brains e-Learning e-learningで身につく TOEIC®L&R TEST スコア600 単熟語&リスニング (New Brain Alliance Inc.) 参考書: TOEIC®テスト新公式問題集 (国際ビジネスコミュニケーション協会) : TOEIC(R)テスト 基礎固めプリント 文法編 (小学館) : 一億人の英文法 (東進ブックス) : TOEIC Test 「正解」が見える (講談社インターナショナル)				
担当教員	林 幸利				
到達目標					
TOEICテストで500点以上のスコアをマークできるレベルの 英語力を獲得し、それを随時発揮できる。 そのために、基礎的なところから標準的なところまでの語彙や文法事項に習熟し、さらにリスニングの練習を並行して行うことで、事柄の概要を聞き取ったり読み取ったりする能力を身につけるとともに、伝えたい事柄を簡潔に書いたり話したりする能力を身につけ、基礎的なコミュニケーションを行うことができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	TOEICテストで550点以上のスコアを随時マークできるレベルの 英語力を獲得する。		TOEICテストで500点以上のスコアをマークできるレベルの 英語力を獲得する。		TOEICテストで400点未満のスコアしかマークできない。
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 F JABEE f					
教育方法等					
概要	近年、TOEIC®テストの重要性が益々増してきている。TOEIC®テストというのは、リスニング力と速読力を重視した実践的な英語コミュニケーション能力を計る試験である。本授業ではテキストのリスニング問題、リーディング問題、文法問題等を通して、TOEIC®テストに対応できる英語力の養成を目指す。				
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業の教材はeラーニング教材となっているので、受講者は個別にホストサーバにアクセスして各個人のペースで学習していくことになる。</li> <li>・教材は、単熟語 (英-和)、単熟語 (リスニング&amp;スピーキング)、単熟語 (和-英)、単熟語 (ディクテーション) の4つである。</li> <li>・成績評価については、eラーニング教材の上記の4つパートのうち最初の2つの設問をすべて完了し、さらに期末試験 (上記のEラン教材から出題) で60点以上であれば合格となる。そしてこの期末試験の得点が最終評価となる。なお、eラーニング教材の後の2つの学習は任意とする。</li> <li>・期末試験の再試験は60点以上で合格とする。</li> <li>・関連科目は、「総合英語Ⅰ」である。</li> </ul>				
注意点	教材を完了させるためには、必須のパートのみで35~50時間程度、任意のパートを含めると65~80時間を要する。本授業は学修単位であるから、15回の授業時間だけで足りない部分は、放課後等に自宅や校内のパソコンまたはスマホ等を利用して、自学自習という形で完了させてもらいたい。 なお、この教材はTOEIC 600点を目指すために開発されたものなので、かなり難易度が高い。熟慮の上、選択するかどうかを決めてほしい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容		週ごとの到達目標
		1週	ガイダンス		
		2週	単熟語 (英-和)、単熟語 (リスニング&スピーキング)		各設問を的確に正解できる。
		3週	単熟語 (英-和)、単熟語 (リスニング&スピーキング)		各設問を的確に正解できる。
		4週	単熟語 (英-和)、単熟語 (リスニング&スピーキング)		各設問を的確に正解できる。
		5週	単熟語 (英-和)、単熟語 (リスニング&スピーキング)		各設問を的確に正解できる。
		6週	単熟語 (英-和)、単熟語 (リスニング&スピーキング)		各設問を的確に正解できる。
		7週	単熟語 (英-和)、単熟語 (リスニング&スピーキング)		各設問を的確に正解できる。
	8週	単熟語 (英-和)、単熟語 (リスニング&スピーキング)		各設問を的確に正解できる。	
	4thQ	9週	単熟語 (英-和)、単熟語 (リスニング&スピーキング)		各設問を的確に正解できる。
		10週	単熟語 (英-和)、単熟語 (リスニング&スピーキング)		各設問を的確に正解できる。
		11週	単熟語 (英-和)、単熟語 (リスニング&スピーキング)		各設問を的確に正解できる。
		12週	単熟語 (英-和)、単熟語 (リスニング&スピーキング)		各設問を的確に正解できる。
		13週	単熟語 (英-和)、単熟語 (リスニング&スピーキング)		各設問を的確に正解できる。
14週		単熟語 (英-和)、単熟語 (リスニング&スピーキング)		各設問を的確に正解できる。	

		15週	単熟語（英-和）、単熟語（リスニング&スピーキング）	各設問を的確に正解できる。
		16週	後期期末試験を実施する	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	統計学	
科目基礎情報							
科目番号	0003		科目区分	一般 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	工科の数学 確率・統計 第2版 田代嘉宏著 (森北出版) 必要に応じて、1~3年の教科書・問題集を参考にする。						
担当教員	澤柳 博文, 山崎 俊博						
到達目標							
データから各種統計量を求め、相関係数、回帰直線が求められる。 いろいろな確率分布表とその期待値や分散が求められる。 母平均の推定・検定ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	データから各種統計量を求め、相関係数、回帰直線が求められる。		データから各種統計量を求め、相関係数が求められる。		データから各種統計量や相関係数が求められない。		
評価項目2	いろいろな確率分布表とその期待値や分散が求められる。		基本的な確率分布表とその期待値や分散が求められる。		基本的な確率分布表とその期待値や分散が求められない。		
評価項目3	与えられた平均値や分散またはデータから導いた平均値や分散から母平均の推定・検定ができる。		与えられた平均値や分散の情報から母平均の推定・検定ができる。		与えられた平均値や分散の情報から母平均の推定・検定ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 C JABEE c							
教育方法等							
概要	記述統計を理解し、データの処理をできるようにする。また、確率、確率分布、母集団と標本について理解し、おもに母平均について統計的推定と検定のしかたを学ぶ。						
授業の進め方・方法	中間・期末の2回の試験の平均点で評価する。平均点が60点を超えた場合は、授業態度、レポート点などを基準の範囲内(+・10%)で加味する。再試は60点未満の試験について行い、その60%以上が出来れば合格となる。						
注意点	電卓を用意すること。毎時間演習をするので、時間内でできない問題は各自やること。試験の間違いを訂正したやり直しレポートを提出すること。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス、ベイズの定理、反復試行	・ベイズの定理を用いて確率を求められる。反復試行の場合の確率を求められる。			
		2週	確率変数の平均、分散	・確率変数の平均(期待値)、分散が求められる。			
		3週	二項分布	・二項分布の場合の平均、分散が求められる。			
		4週	資料の平均、分散	・統計的資料から平均、分散、標準偏差を求められる。			
		5週	2変量の解析	・共分散、相関係数を求められる。			
		6週	回帰直線	・最小二乗法から回帰直線の公式を導くことができ、その方程式が求められる。			
		7週	前期中間試験 実施する				
		8週	正規分布	・正規分布表を用いて確率が求められる。			
	2ndQ	9週	ポアソン分布	・正規分布、二項分布とポアソン分布の関係を理解し、確率を求められる。			
		10週	母集団と標本、標本平均の分布	・中心極限定理を理解して、正規分布に従う母集団から標本平均の確率分布を出し、標本平均の確率が求められる。			
		11週	母平均の推定	・母平均の推定の考え方を理解し、標本平均が正規分布の場合に母平均を推定できる。			
		12週	母平均の検定	・母平均の検定の考え方を理解し、標本平均が正規分布の場合に母平均の検定ができる。			
		13週	F分布、母平均のF推定	・F分布に従う条件を理解し、F分布表を用いて母平均のF推定ができる。			
		14週	母平均のF検定	・標本数が少ない場合にF分布表を用いてF検定ができる。			
		15週	母平均の推定・検定の演習	・問題の条件から用いる分布や適用方法を判断し、母平均の推定・検定ができる。			
		16週	後期中間試験 実施する				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100

基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	応用解析学
科目基礎情報					
科目番号	0004		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 『複素関数の基礎』 寺田文行 著 (サイエンス社) 参考書: 数学30講シリーズ6 『複素数30講』 志賀浩二 著 (朝倉書店) 「複素関数キャンパスゼミ」 高杉豊・馬場敬之 著 (マゼマ)				
担当教員	池田 盛一, 山崎 俊博				
到達目標					
複素数の四則計算ができる。極形式が扱える。 1次関数の円々対応を理解し、複素平面上の直線・円の方程式を扱うことができる。 正則関数の判定ができる。 複素関数の導関数を求めることができる。 対数関数などの多価関数の値をもとめることができる。 複素積分ができる。 留数定理を用いて複素積分ができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	複素数の極形式を求めることができる。複素数の四則計算ができ、その計算に極形式を利用することができる。	複素数の四則計算ができる。複素数の極形式を求めることができる。	複素数の四則計算ができない。複素数の極形式を求めることができない。		
評価項目2	1次関数の円々対応を説明することができる。複素平面上の直線・円の方程式が与えられたら作図することができる。また、図形から方程式を作ることができる。	複素平面上の直線・円の方程式が与えられたら作図することができる。また、図形から方程式を作ることができる。	複素平面上の直線・円の方程式が与えられたら作図することができない。また、図形から方程式を作ることができない。		
評価項目3	コーシー・リーマンの方程式を用いて正則関数の判定ができる。複素関数の導関数を求めることができる。対数関数などの多価関数の値をもとめることができる。	コーシー・リーマンの方程式を用いて正則関数の判定ができる。複素関数の導関数を求めることができる。	正則関数の判定ができない。 ・ x000D 複素関数の導関数を求めることができない。		
評価項目4	複素積分の定義を理解し、線積分を用いて複素積分ができる。	線積分を用いて複素積分ができる。	複素積分ができない。		
評価項目5	孤立特異点を見つけ、その点の留数を計算することができ、留数定理を用いて複素積分ができる。	留数定理を用いて複素積分ができる。	留数定理を用いて複素積分ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 C JABEE C					
教育方法等					
概要	複素関数の扱い方や微分法・積分法に関する基本的な考え方を理解し、理工系分野への応用への基礎知識を養う。				
授業の進め方・方法	授業の説明をきちんとノートし、指示された問題をあとで自分で解いて理解を深めることが重要である。 合否判定: 後期中間100%+学年末100%で、平均60点以上を合格とする。 最終評価: 合否判定点と同じ。 再試験は行わない。 授業の内容を理解するには復習が欠かせない。 授業のあった日は必ず自分で類似の問題を解いて、理解を深めておくことが必要である。				
注意点	授業での問題演習は大切なので、欠席しないようにすること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	複素平面と極形式	複素数の演算の幾何学的意味が理解でき、極形式に変形できる。	
		2週	極形式、直線・円の方程式	直線・円の方程式を極形式を利用して表現できる。	
		3週	1次分数関数、円々対応、リーマン球	1次分数関数の構造を理解し、円々対応、リーマン球の性質を活用して計算ができる。	
		4週	領域、極限、複素関数の導関数	複素平面上で極限值や導関数を求めることができる。	
		5週	C-R方程式	コーシー・リーマンの方程式を利用して、正則関数が否かを調べることができる。	
		6週	正則関数の直交性の保存	正則関数の性質を理解し、証明問題を解くことができる。	
		7週	等角写像	等角写像の性質を理解・証明し、利用することができる。	
		8週	後期中間試験:実施する		
	4thQ	9週	指数関数、三角関数	関数の値を求めることができる	
		10週	三角関数、対数関数	関数の値を求めることができる。	

	11週	積分路、定積分の計算	積分路の違いに注意しながら定積分の計算ができる.
	12週	線積分	コーシーの定理を利用して、積分の計算ができる.
	13週	テーラー展開、ローラン展開	マクローリン展開を利用して、級数展開できる。
	14週	留数, 極	留数を用いて、定積分の計算ができる
	15週	練習問題	演習
	16週	後期期末試験:実施する	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	化学と人間生活
科目基礎情報					
科目番号	0027		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 自作プリント, 大人のための科学 高校で教わりたかった化学(日本評論社), 初歩から学ぶ基礎物理学「電磁波・原子」(大日本図書), 初歩から学ぶ基礎物理学「熱・波動」(大日本図書) 参考書: エンジニアのための化学(東京化学同人), 工科系学生のための化学(東京化学同人), 教養の化学-暮らしのサイエンス-(東京化学同人), 「量子化学」のことが一冊でまるごとわかる(ベレ出版) 自学自習用問題集: エンジニアのための化学演習編(東京化学同人), 工科系学生のための化学演習編(東京化学同人)				
担当教員	佐藤 潤				
到達目標					
化学反応を量子化学やエネルギー的な視点から説明することができる。 専門分野と関わりのある化学反応について理解することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	化学反応を量子化学やエネルギー的な視点から説明ことができ、これらの知識を活用して、課題の解決へ応用することができる。	化学反応を量子化学やエネルギー的な視点から説明ことができ、これらの知識を日常で起こる事象と結びつけて考えることができる。	化学反応を量子化学やエネルギー的な視点から説明することができない。		
評価項目2	専門分野と関わりのある化学反応について理解することができ、その知識を活用して、専門分野における課題の解決へ応用することができる。	専門分野と関わりのある化学反応について理解することができ、その知識を専門分野において活用することができる。	専門分野と関わりのある化学反応について理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	物理や専門科目において学んだ"エネルギー"や"量子力学"の考え方を化学に導入すると、また別の側面が見えてくる。本科目では、"量子力学"や"エネルギー"の考え方をを用いて、原子・分子の結合や化学反応の進み方について概説するとともに、技術者として必要な化学の知識について、環境問題や各専門分野との関連性の視点から説明する。				
授業の進め方・方法	【授業の進め方】 授業プリントを中心に用いて、講義形式で実施する。また、学習内容に対する理解を深めるために、必要に応じて実験を行う。 【受講に当たっての留意事項】 本科における"化学"および"物理(気体分子運動論, 量子力学)"に関する知識が必要となる。 "化学"に関する知識については、必要事項を講義中に解説を行いながら進めるが、基礎的な内容については復習をすることが望ましい。"物理"に関連する部分については、本科で用いた教科書をベースにした説明を行うので、手元にある場合には持参することを推奨する。 また、各専門分野において材料系の科目がある場合には関連する内容を取り上げている場合があるので、そういった箇所の復習も行ってもらいたい。 【合否判定】定期試験(80%)、レポート(課題レポート, 実験レポート)など(20%)で評価し、評点が60点以上であること。 【最終評価】合否判定と同じ。 【再試験】不合格者には補習を行った後、再試験を行い60点以上を合格とする。なお、再試験で合格したものの最終評価は60点とする。				
注意点	関連科目: 化学(本科1・2年)、物理(本科2年)、応用物理、科学基礎実験、電気材料、電子材料、建築材料 自然科学・工学的な現象を化学的な視点を用いてみると、ありふれた現象にもより違った側面が見えてきます。各専門分野に関連した事例を取り上げていくので、各自の専門分野との関わりを意識して授業に参加してください。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	1 ガイダンス、化学の基礎	化学を学ぶための前提知識について理解できる。	
		2週	2 元素・周期表	原子の構造と安定性について理解できる。	
		3週	3 電子軌道	電子軌道の考え方について理解できる。	
		4週	4 周期表と電子軌道	周期表と電子軌道の関連性について理解できる。	
		5週	5 イオン結合	イオンの形成およびイオン結合をエネルギーと関連させて理解できる。	
		6週	6 共有結合	共有結合の形成過程を電子軌道, エネルギーと関連させて理解できる。	
		7週	7 物質質量	物質質量の考え方について理解できる。	
		8週	後期中間試験: 実施する		
	4thQ	9週	8 化学反応とエネルギー	分子運動とエネルギーの関係性について理解できる。	
		10週	9 化学反応速度論	化学反応の進み方とエネルギーの関連性について理解できる。	
		11週	10 化学分析の手法 -分光分析-	化学分析, 特に分光分析の仕組みについて理解できる。	
		12週	11 化学と科学技術1 -化学と電気・電子・情報-	電気・電子・情報に関連する化学反応について理解することができる。	

	13週	12 化学と科学技術2 -化学と機械・建築-	機械・建築に関連する化学反応について理解することができる。
	14週	13 化学と科学技術3 -放射線の化学-	放射線に関連する化学反応や応用例について理解できる。
	15週	14 化学と科学技術4 -化学と環境-	環境汚染や環境浄化に関連する化学反応について理解することができる。
	16週	後期末試験：実施する	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	システム工学
科目基礎情報					
科目番号	0005	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子情報システム工学専攻	対象学年	専1		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	参考書: システム工学の基礎 伊庭斉志 数理工学社 参考書: システム工学入門 寺野寿郎 共立出版				
担当教員	谷 堯尚				
到達目標					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安(優・秀)	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	システムのモデル化について理解し、応用できる。	システムのモデル化について理解している。	システムのモデル化について理解していない。		
評価項目2	最適化技法について理解し、応用できる。	最適化技法について理解している。	最適化技法について理解していない。		
評価項目3	スケジューリングについて理解し、応用できる。	スケジューリングについて理解している。	スケジューリングについて理解していない。		
評価項目4	システムの信頼性について理解し、応用できる。	システムの信頼性について理解している。	システムの信頼性について理解していない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 D 学習・教育到達度目標 E JABEE d-3 JABEE e JABEE h					
教育方法等					
概要	昨今、システム工学は全ての技術者にとって重要な分野の1つである。 本講義を通して、システム工学の概念および手法の基礎を身につけることを目指す。				
授業の進め方・方法	講義はスライドと板書を用いる。スライドは資料として配布する。  授業の進行に合わせて適宜レポート課題を課す。 合否判定: レポート、授業内課題および定期試験の評価の重み付け平均が60点以上であること。 最終評価: レポート (40%) 定期試験 (40%) 授業内課題・出欠等授業態度 (20%)  なお、レポートは1回を予定している。 レポートを100点満点で採点する。 レポートには期限を設定する。 期限を過ぎて提出されたレポートは、期限後1週間以内であれば評点の半分、それ以降に提出されたレポートは0点として計算する。 盗用・剽窃等、社会通念に照らして不正と見なされる行為が発覚した場合、単位を認めない。  工学におけるシステムとは何か、どのような手法で取り扱うかを学ぶ。 授業を通して得られた知識や方法論をもとに、工学的な思考やプロジェクト遂行能力を身につけて欲しい。				
注意点	確率・統計の知識が必要となる。 授業内でも補足するが、不安のある者は予習すること。  本科目は学修単位科目であるため、授業時間相当の自主学習 (授業の予習・復習を含む) を行う必要がある。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	システム工学の概要	システム工学の概念を理解できる。	
		2週	システムのモデル化と制御	システムのモデル化と制御について理解できる。	
		3週	システムのモデル化と制御	システムのモデル化と制御について理解できる。	
		4週	システムのモデル化と制御	システムのモデル化と制御について理解できる。	
		5週	システムのモデル化と制御	システムのモデル化と制御について理解できる。	
		6週	システムのモデル化と制御	システムのモデル化と制御について理解できる。	
		7週	システムのモデル化と制御	システムのモデル化と制御について理解できる。	
		8週	システムのモデル化と制御	システムのモデル化と制御について理解できる。	
	2ndQ	9週	最適化技法	最適化技法について理解できる。	
		10週	最適化技法	最適化技法について理解できる。	
		11週	スケジューリング	スケジューリングについて理解できる。	
		12週	スケジューリング	スケジューリングについて理解できる。	
		13週	スケジューリング	スケジューリングについて理解できる。	
		14週	信頼性	システムの信頼性について理解できる。	
		15週	信頼性	システムの信頼性について理解できる。	
		16週	前期期末試験	スケジューリングと信頼性について試験する	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	レポート	ポートフォリオ	態度	合計

総合評価割合	40	40	20	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0
専門的能力	40	40	20	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	制御工学特論		
科目基礎情報							
科目番号	0006		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材							
担当教員	千田 和範						
到達目標							
物理モデルや回路モデルから制御系モデルを記述し、制御系CADを用いて簡単な制御系解析およびシミュレーション技法を修得する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	現実的な課題を制御系CADを用いて解析することができる。		教科書の例題レベルの問題を制御系CADを用いて解くことができる。		制御系CADを用いて制御の例題問題を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 C JABEE d-1							
教育方法等							
概要	制御工学特論では、制御系CADを用いて、制御工学特有の解析手法を理解することを目的とする。講義の前半は制御系の問題とその解法を説明する。講義の後半は、前半で与えられた問題を制御系CAD (Scilab, Maxima) を使って解く方法を数名のグループごとに検討し、レポートにまとめグループ単位で提出する。						
授業の進め方・方法	基本的ではあるが、重要な物理現象を扱うため、関連分野の基礎知識を有していることが望ましい。なお、解析を行う上で、微分方程式などの数学の基礎知識を必要とするので各自復習しておいて欲しい。 成績評価は講義内容に基づく課題によって行う。 この演習課題は期限内提出が必須である。なお課題提出はBlackboardを用いて行なう必要がある。						
注意点	本科目は学修単位科目であるため、授業時間相当の自主学習(授業の予習・復習を含む)を行う必要がある。						
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	制御系の基本用語を理解することができる。			
		2週	1階微分方程式	一階微分方程式の解を制御系CADを用いて計算することができる。			
		3週	2階微分方程式(自由振動モデル)	自由振動モデルの解を制御系CADを用いて計算し、減衰比に応じて挙動が変わることを確認できる。			
		4週	2階微分方程式(強制振動)	代表的な強制振動入力を加えた場合の強制振動解を制御系CADを用いて導出することができる。			
		5週	2階微分方程式(強制振動2)	強制振動解の応答波形から行き過ぎ時間、行き過ぎ量、遅れ時間、立上り時間を制御系CADを用いて導出することができる。			
		6週	伝達関数の応答と定常偏差	伝達関数の応答と定常偏差を制御系CADを用いて導出することができる。			
		7週	周波数特性の図的解析1 ~ ベクトル軌跡	あるシステムのベクトル軌跡を制御系CADを用いて導出することができる。			
		8週	周波数特性の図的解析2 ~ ナイキストの安定判別	ベクトル軌跡を用いて安定判別を行うことができる。			
	2ndQ	9週	安定判別1	制御系CADを用いてフルビッツの安定判別を行うことができる。			
		10週	周波数応答の角周波数・位相差計算	伝達関数から周波数応答を数値処理型制御系CADにより可視化し、そこから角周波数や位相を導出することができる。			
		11週	周波数応答のボード線図	伝達関数から数値処理型制御系CADを用いてボード線図を描画できる。			
		12週	システム同定1	周波数応答の角周波数、位相差を制御系CADを用いて導出できる。			
		13週	システム同定2	導出した周波数応答の角周波数、位相差からボード線図を描画し、そのボード線図からシステムの伝達関数を推定できる。			
		14週	PID 制御系の設計1	制御系CADのPID設計ツールの使用方法を理解できる。			
		15週	PID 制御系の設計2	制御系CADを用いてジークラ・ニコルスの限界感度法を基にPID制御器を設計できる。			
		16週	レポート指導	各週の課題をレポートにまとめることができる。			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	品質工学
科目基礎情報					
科目番号	0007		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	入門パラメータ設計 (井上清和・中野恵司・林 裕人・芝野広志・大場章司, 日科技連)				
担当教員	渡邊 聖司				
到達目標					
①品質工学の手法を理解できる。 ②品質工学の計算方法や評価方法を理解できる。 ③各自の研究分野に品質工学の手法を応用し、利用できるようになる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	品質工学の手法を理解し、他者に説明できる。	品質工学の手法を理解できる。	品質工学の手法を理解できない。		
評価項目2	品質工学の計算方法や評価方法を理解し、利用でき、他者に説明できる。	品質工学の計算方法や評価方法を理解し、利用できる。	品質工学の計算方法や評価方法を理解し、利用できない。		
評価項目3	各自の研究分野に品質工学の手法を応用し、利用でき、他者に説明できる。	各自の研究分野に品質工学の手法を応用し、利用できる。	各自の研究分野に品質工学の手法を応用し、利用できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 D JABEE d-1					
教育方法等					
概要	品質工学は、工学的な問題解決の一手法として、従来の考え方とはまったく異なる新しい学問である。汎用性も高く、科学的かつ系統だった技術開発・製品開発を行うために製造業を中心とする各企業において多用されている。この科目の目標は、品質工学の手法を演習を通して学び、その計算や評価方法を修得し、工学的な問題に応用し、解決できる能力を身につけることである。				
授業の進め方・方法	①演習の解説中、不明な点や疑問点などは積極的に質問をして欲しいと思います。 ②電卓を使う機会もありますので忘れずに。 ③テキストは、第2版以降を購入してください。(ネット購入の初版本は 正誤表が未添付の場合あり。)  ①合否判定: 提出された演習レポートを評価基準によって評価し、提出されたすべての演習レポートの平均点が60点を超えていること。 演習レポートの評価; 演習レポートの提出 (40%) + 演習レポートの内容 (60%) 評価基準; レポートの体裁, レポートの内容, 文献引用 (コピー&ペーストの確認) など ②最終評価: 合格 (合否判定60点以上) ; 合否判定 + 授業態度 (10%) , 不合格 (合否判定60点未満) ; 合否判定 ③再試験: 未提出演習レポートの提出と別に課す追加課題の提出し、提出されたすべての演習レポートおよび別に課す追加課題の平均点が60点以上で合格とする。  ①5月の連休明けまでにテキストを準備してください。 ②演習レポートは、メールまたはTeams個別チャットへファイル添付で提出してください。 メールアドレス seiji@kushiro.kosen-ac.jp[Microsoft] ③演習レポートは提出期限までに必ず提出してください。(提出期限を順守できない場合は最高60点、未提出の場合は0点となります。)				
注意点	参考書: ①おはなし品質工学 改訂版 (日本規格協会, 矢野 宏著) ②入門タグチメソッド (日科技連, 立林和夫著) ③やさしい「タグチメソッド」の考え方 (日刊工業新聞社, 矢野 宏著) ④やさしく使える「タグチメソッド」の計算法 (日刊工業新聞社, 矢野 宏著) ⑤はじめてのパラメータ設計 (日科技連, 渡部義晴著) など				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	受講ガイダンス	講義内容の説明と成績評価方法が理解できる。	
		2週	実験計画法と品質工学	実験計画法と品質工学の違いが理解ができる。レポートあり。	
		3週	品質工学とは	品質工学, パラメータ設計などが理解できる。レポートあり	
		4週	パラメータ設計の考え方	パラメータ設計の考え方, 直交表, 誤差因子の割り付け, 動特性の種類と評価特性などの知識が理解できる。レポートあり。	
		5週	パラメータ設計に必要な知識①	ゼロ点比例式, S N比と感度が理解できる。演習問題あり。	
		6週	パラメータ設計に必要な知識②	ゼロ点比例式, S N比と感度が理解できる。演習問題あり。	
		7週	パラメータ設計に必要な知識③	ゼロ点比例式, S N比と感度が理解できる。演習問題あり。	
		8週	演習 (ゼロ点比例式)	ゼロ点比例式を用いた演習により, S N比と感度が理解できる。	
	2ndQ	9週	動特性のパラメータ設計①	動特性のパラメータ設計が理解できる。演習問題あり。	

	10週	動特性のパラメータ設計②	動特性のパラメータ設計が理解できる. 演習問題あり.
	11週	静特性のパラメータ設計①	静特性のパラメータ設計が理解できる. 演習問題あり.
	12週	静特性のパラメータ設計②	静特性のパラメータ設計が理解できる. 演習問題あり.
	13週	静特性のパラメータ設計③	静特性のパラメータ設計が理解できる. 演習問題あり.
	14週	シミュレータを用いた総合演習①	シミュレータを用いた総合演習により, 静特性解析, 動特性解析およびエンジニアの仕事の流れが理解 できる.
	15週	シミュレータを用いた総合演習①	シミュレータを用いた総合演習により, 静特性解析, 動特性解析およびエンジニアの仕事の流れが理解 できる.
	16週	シミュレータを用いた総合演習①	シミュレータを用いた総合演習により, 静特性解析, 動特性解析およびエンジニアの仕事の流れが理解 できる.

#### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

#### 評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	100	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	コンピュータ設計工学
科目基礎情報					
科目番号	0008		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	PDF 形式の自作テキスト				
担当教員	高橋 剛				
到達目標					
(1) 情報工学と設計に関する知識を十分に課題解決に活用できる。 (2) 力学や機構について、CADを使ってシミュレートできる。 (3) 3D 橋梁モデルを構築し、解析ができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	3D-CADを使って複雑な部品のモデリングができる。	3D-CADを使って一般的な部品のモデリングができる。	3D-CADを使って単純な部品のモデリングができない。		
評価項目2	3D-CADで作ったモデルを組み合わせてさらに複雑なモデルをアッセンブリできる。	3D-CADで作ったモデルを組み合わせて単純なモデルをアッセンブリできる。	3D-CADで作ったモデルを組み合わせてアッセンブリモデルができない。		
評価項目3	3D-CADで作ったモデルに解析条件を与え解析し、結果を評価し、更に最適化設計したモデルを発表できる。	3D-CADで作ったモデルに解析条件を与え解析し、結果を評価できる。	3D-CADで作ったモデルで解析できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 C JABEE d-1					
教育方法等					
概要	3DCAD (3Dimensional Computer Aided Design) の発展に伴い、この情報応用技術を使って、多様な技術課題を分析し、問題を解決することが、エンジニアにとって必要不可欠なものとなった。そこで、本講義は、基礎的な知識や技術を統合した設計演習を通して、課題の探求ができ、解決する総合的な設計能力を養うことを目的とする。				
授業の進め方・方法	講義内容の主体は3DCAD システムの操作の熟知もあるが、創造的な設計能力を養うことを主眼している。すなわち、CAD とそのアプリケーションである各種シミュレーション機能をフルに利用した高度な利用方法について具体的な技術課題を基に授業を進める。授業内容に応じて演習問題を課題として出し、解答の提出を求める。				
注意点	講義内容の主体は3DCAD システムの操作の熟知もあるが、創造的な設計能力を養うことを主眼している。すなわち、CAD とそのアプリケーションである各種シミュレーション機能をフルに利用した高度な利用方法について具体的な技術課題を基に授業を進める。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週		SolidWorksによる、3次元部品がモデリングできる。	
		2週	3D モデリング	SolidWorksによる、3次元部品のモデリングができる。	
		3週	3D モデリング	SolidWorksによる、3次元部品のモデリングができる。	
		4週	CAE (ビーム要素)	ビーム要素を使った、構造物のモデリングができる。	
		5週	CAE (ビーム要素)	解析条件を与えて、外部から作用させた負荷に対する結果を確認できる。	
		6週	3次元モデルのモデリングとアセンブリができる。	SolidWorksによる、3次元部品を組み合わせるアッセンブリができる。	
		7週	3次元モデルのモデリングとアセンブリができる。	SolidWorksによる、3次元部品を組み合わせるアッセンブリができる。	
		8週		はり構造物のモデリングができる。	
	2ndQ	9週		はり構造のモデリングを行った構造物に解析条件を与え力学解析ができる。	
		10週		はり構造のモデリングを行った構造物に解析条件を与え力学解析の結果を評価して構造の変更ができる。	
		11週	梁モデル	はり構造のモデリングを行った構造物に解析条件を与えた力学解析結果から最適化設計ができる。	
		12週	CAE (溶接, 熱伝達)	構造物の伝熱解析モデルを作り条件を与えて解析できる。	
		13週	3次元橋梁モデルを設計し、その検証ができる。	3次元橋梁モデルのモデリングができる。	
		14週	3次元橋梁モデルを設計し、その検証ができる。	3次元橋梁モデルのモデリングができる。	
		15週	3次元橋梁モデルを設計し、その検証ができる。	モデリング3次元橋梁に条件を与えて、解析できる。解析結果を評価できる。	
		16週	3次元橋梁モデルを設計し、その検証ができる。	モデリング3次元橋梁に条件を与えて、解析できる。解析結果を基に最適化設計を行うことができる。	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	30	0	0	70	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	30	0	0	70	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	多変量解析		
科目基礎情報							
科目番号	0009		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	教科書: 河口至南, 多変量解析入門I. 森北出版, 1973. 参考書1: 高遠節夫他, 新確率統計. 大日本図書, 2013. 参考書2: 佐藤義治, 多変量データの分類. 朝倉書店, 2009.						
担当教員	天元 宏						
到達目標							
判別分析・主成分分析・重回帰分析の各手法の基礎理論を概念図と数式を用いて説明できる。多変量データを実際に手計算及びUNIXコンピュータを用いて解析操作ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 C JABEE c							
教育方法等							
概要	近年コンピュータに蓄積させた莫大な量のデータから価値のある知識を抽出し、未来を予測する人工知能技術「データサイエンス」に関する研究が盛んであり、多変量解析はその基礎となる重要な理論である。この科目では多変量解析の多様な手法のうち主要な三種に絞り、数学的な理論と、コンピュータによる実践的な処理の両面から知識を習得することを目標とする。また、主要な三種以外の手法についても概略の紹介を行う。キーワード: 数学・情報技術						
授業の進め方・方法	電卓や事前に配布した資料などを持参すること。線形代数の知識が前提となるため、本科で学習したベクトルや行列に関する基礎的な項目を復習しておくこと。また、確率統計に関する知識も前提となるため、本科確率統計又は専攻科統計学を履修しておくこと。さらに、コンピュータ実習のためUNIXリテラシー能力(Linuxのコマンド操作)も必要となるから、アドバンストコンピューティングも必ず履修しておくこと。演習問題を10回程度・プログラミング課題を3回程度与えるので自学自習に努めること。試験1回による評価を7割、レポートによる評価を3割として合否判定点を算出し、60点合否判定を行う。合否判定点で不合格となった場合は、試験前日までに全レポートを提出していたことを受験条件とした上で、合格点60点で再試験を行う。レポート評価は個別のレポート課題にて指示された項目を全て満たしていれば100点とするが、不十分な項目がある場合1項目につき-10点とする。						
注意点	講義室での理論の学習は難しいかもしれないが、コンピュータを用いた実習課題は机上で学んだ理論を実際に視覚的に確認でき楽しいものである。実習課題をより深く理解して楽しむため、座学の受講に力を入れよう。また、UNIXリテラシー能力も大変重要であるから、事前のアドバンストコンピューティングの履修にも力を入れて欲しい。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
後期	3rdQ	1週	判別分析の考え方・2群の判別	概念図を描いて説明できる。判別式を導出できる。			
		2週	判別分析の考え方・2群の判別	概念図を描いて説明できる。判別式を導出できる。			
		3週	二つの正規母集団の判別	正規母集団に対する判別式を導出できる。			
		4週	判別分析のコンピュータ実習・レポート作成	判別分析のコンピュータ実習・レポート作成			
		5週	判別分析のコンピュータ実習・レポート作成	判別分析のコンピュータ実習・レポート作成			
		6週	主成分分析の考え方・求め方	第1主成分・第2主成分を導出できる。			
		7週	主成分分析の考え方・求め方	第1主成分・第2主成分を導出できる。			
		8週	標準変量への変換と累積寄与率	標準変量に変換する意義を説明できる。第何主成分まで考えれば十分か判定できる。			
	4thQ	9週	主成分分析のコンピュータ実習・レポート作成	コンピュータを用いて主成分分析を行い、作図できる。			
		10週	主成分分析のコンピュータ実習・レポート作成	コンピュータを用いて主成分分析を行い、作図できる。			
		11週	重回帰分析の考え方・求め方	重回帰式を導出できる。			
		12週	重回帰分析の考え方・求め方	重回帰式を導出できる。			
		13週	重回帰分析のコンピュータ実習・レポート作成	コンピュータ実習・レポート作成			
		14週	重回帰分析のコンピュータ実習・レポート作成	コンピュータ実習・レポート作成			
		15週	実習予備日	コンピュータ実習・レポート作成			
		16週	後期期末試験:実施する				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	ヒューマンコンピュータインタラクション概論	
科目基礎情報							
科目番号	0010		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	ユーザビリティエンジニアリング原論 ヤコブ・ニールセン著 篠原稔和監訳 三好かおる訳 人とロボットの<間>をデザインする 山田誠二著						
担当教員	谷 堯尚						
到達目標							
ヒューマンコンピュータインタラクションおよびその関連分野について、基礎的な知識を身につけ、考え方を理解することを目標とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目 1	人間とコンピュータのインタラクションについて理解し、具体的な事例について適切な考察を行うことができる。		人間とコンピュータのインタラクションについて概ね理解し、具体的な事例について考察を行うことができる。		人間とコンピュータのインタラクションについての理解、および考察ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 C JABEE d-1							
教育方法等							
概要	昨今、我々はコンピュータなど多くの機器に囲まれ、それらと触れ合うことで生活を行っているが、これら機器の多くはユーザにとって使いやすいよう工夫が施されている。 本科目では、人とコンピュータ等の関係の形や、関係の改善のための工夫の類型などについて俯瞰し、基礎的な知識と考え方を身につけることを目指す。						
授業の進め方・方法	講義はスライドを用いて行う。スライドの電子ファイルは配布する。 講義時間中には議論する時間を多く設ける。 合否判定：レポート課題の評価（60%）と授業中の議論の評価（40%）の重み付け和が60点を超過していること。 最終評価：レポート課題の評価（60%）と授業中の議論の評価（40%）と授業態度（±10%）の合計 再試験等：レポートの再提出						
注意点	本科目は学修単位科目であるため、授業時間相当の自主学習（授業の予習・復習を含む）を行う必要がある。						
授業の属性・履修上の区分							
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	ガイダンス・概論	授業の進め方、予定、および評価、レポートの内容を理解する。			
		2週	ユーザビリティ1	ユーザビリティとはなにか理解し説明できる。			
		3週	ユーザビリティ2	ユーザビリティとはなにか理解し説明できる。			
		4週	ユーザビリティの評価方法1	ユーザビリティの評価指標や評価の収集方法について理解し説明できる。			
		5週	ユーザビリティの評価方法2	ユーザビリティの評価指標や評価の収集方法について理解し説明できる。			
		6週	ユーザビリティの向上手法1	ユーザビリティを向上する手法について理解し説明できる。			
		7週	ユーザビリティの向上手法2	ユーザビリティを向上する手法について理解し説明できる。			
		8週	ヒューマンコンピュータインタラクション1	ヒューマンコンピュータインタラクションとはなにか理解し説明できる。			
	4thQ	9週	ヒューマンコンピュータインタラクション2	ヒューマンコンピュータインタラクションとはなにか理解し説明できる。			
		10週	ヒューマンコンピュータインタラクション3	ヒューマンコンピュータインタラクションとはなにか理解し説明できる。			
		11週	ヒューマンコンピュータインタラクションと関連分野1	ヒューマンコンピュータインタラクションの関連する分野について説明できる。			
		12週	ヒューマンコンピュータインタラクションと関連分野2	ヒューマンコンピュータインタラクションの関連する分野について説明できる。			
		13週	ヒューマンコンピュータインタラクションと関連分野3	ヒューマンコンピュータインタラクションの関連する分野について説明できる。			
		14週	ヒューマンコンピュータインタラクションと関連分野4	ヒューマンコンピュータインタラクションの関連する分野について説明できる。			
		15週	レポート作成				
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	40	0	0	60	0	100

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	0	40	0	0	60	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	ロボティクス
科目基礎情報					
科目番号	0011		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	〈教材〉「ロボット入門」渡辺嘉二郎, 小俣善史著 (オーム社)				
担当教員	小谷 斉之				
到達目標					
1. ロボットで用いるアクチュエータの種類と基本技術を説明できる 2. ロボットで用いる制御とセンサ技術を説明できる 3. ロボットの機構と動力学を説明できる 4. ロボットで用いる材料と部品を説明できる					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
ロボットで用いるアクチュエータの種類と基本技術	ロボットで用いるアクチュエータの種類と基本技術を理解し, ロボットに応じて適切なアクチュエータを示すことができる		ロボットで用いるアクチュエータの種類と基本技術を理解している		ロボットで用いるアクチュエータの種類と基本技術を理解していない
ロボットで用いる制御とセンサ技術	ロボットで用いる制御とセンサ技術を理解し, ロボットに応じた適切な制御とセンサを示すことができる		ロボットで用いる制御とセンサ技術を理解している		ロボットで用いる制御とセンサ技術を理解していない
ロボットの機構と動力学	ロボットの機構と動力学を理解し, ロボットに応じた機構と動力学を示すことができる		ロボットの機構と動力学を理解している		ロボットの機構と動力学を理解していない
ロボットで用いる材料と部品	ロボットで用いる材料と部品を理解し, ロボットに応じて適切な材料と部品を示すことができる		ロボットで用いる材料と部品を理解している		ロボットで用いる材料と部品を理解していない
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 C JABEE d-1					
教育方法等					
概要	ロボットを制作・動作させるためには, 機械工学, 電子工学, 制御工学, 情報工学などといった様々な分野の複合技術であるメカトロニクス技術が必要となる。本講義では, 様々な専門分野がそれぞれ関連していることを学び, また, 自ら積極的に物事を調べ, 説明する能力を付けてほしい。				
授業の進め方・方法	授業は主に〈教材〉の「ロボット入門」に沿って講義を進めていくので, 各自で教材を読んで予習と復習を行い授業内容の理解を深めてください。また, 必要に応じて適宜配布資料を配ります。講義内容は, まずロボットの構成要素とメカトロニクス技術の基本概要を学び, 続いて各構成要素である駆動機, センサ, 静・動力学および材料・部品設計の基礎知識を身につけて貰う。 定期試験 (年一回) [100%] 合否判定 : 1/3欠課を超えない範囲で講義に出席し, 1回の定期試験の結果が100点満点で60点以上であること 最終評価 : 1回の定期試験の結果 (100%)				
注意点	本科で学習した電気回路, 計測工学, 機械工学を学習することでロボットの製作や動作について深く理解することができます。様々な分野を広く知る必要がありますが, 確実に理解するように努力をすること。 本科目は学修単位科目であるため, 授業時間相当の自習学習 (授業の予習・復習を含む) を行う必要がある。 授業や試験には数値計算を必要とする場合がありますので, 関数電卓を準備して講義に参加すること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	ロボットの歴史と種類	ロボットについて説明できる。	
		2週	ロボットの構成 (1)	ロボットを構成するメカトロニクス技術を説明できる。	
		3週	ロボットの構成 (2)	ロボットを構成するメカトロニクス技術を説明できる。	
		4週	ロボットの基礎 (1)	ロボットを動作させるアクチュエータやその種類と技術を説明できる。	
		5週	ロボットの基礎 (2)	ロボットを動作させるアクチュエータやその種類と技術を説明できる。	
		6週	ロボットの制御 (1)	ロボットの知能となる制御技術と感覚器となるセンサ技術を説明できる。	
		7週	ロボットの制御 (2)	ロボットの知能となる制御技術と感覚器となるセンサ技術を説明できる。	
	8週	ロボットの制御 (3)	ロボットの知能となる制御技術と感覚器となるセンサ技術を説明できる。		
	4thQ	9週	ロボットの機構 (1)	ロボットの動作させる機構とその動力学について説明できる。	
		10週	ロボットの機構 (2)	ロボットの動作させる機構とその動力学について説明できる。	
11週		ロボットの機構 (3)	ロボットの動作させる機構とその動力学について説明できる。		

		12週	ロボットと人	人間工学や感性工学を背景に、ロボットと人との関係について説明できる。
		13週	ロボットの材料と部品（1）	ロボットの材料や部品について説明できる。
		14週	ロボットの材料と部品（2）	ロボットの材料や部品について説明できる。
		15週	ロボットの材料と部品（3）	ロボットの材料や部品について説明できる。
		16週	期末試験	

#### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

#### 評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	情報数学特論
科目基礎情報					
科目番号	0012		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 最適化手法入門 天谷 数里工学社, 参考書: 最適化とその応用 矢部 数里工学社, 参考書: はじめてのオペレーションズリサーチ 加藤 森北出版 自学自習用問題集: 最適化手法入門 天谷 数里工学社				
担当教員	本間 宏利				
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会における離散最適化の重要性や概念を理解できる。</li> <li>・数理最適化のための定式化について理解し, 実装できる。</li> <li>・スケジューリングアルゴリズム, 最適化アルゴリズム, 意思決定アルゴリズムなどの発展型アルゴリズムを用いての離散最適化問題を解くことができる。</li> </ul>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	実社会における離散最適化の重要性や概念を理解できる。	実社会における離散最適化の概念を理解できる。	離散最適化の重要性や概念について理解できない。		
	数理最適化のための定式化について理解し, 実装できる。	数理最適化のための定式化について理解できる。	数理最適化のための定式化について理解できない。		
	多くの発展型アルゴリズムを用いての離散最適化問題を解くことができる。	発展型アルゴリズムを用いての簡単な離散最適化問題を解くことができる。	離散最適化問題を何も解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 C JABEE d-1					
教育方法等					
概要	離散最適化技術は様々な社会システムにおいて合理的な意思決定の科学的方法を与えるものであり, 社会システムが複雑になるにつれ, この技術の必要性が高まっている。 本科目の目標を以下に示す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実社会における離散最適化の重要性や概念を理解できる。</li> <li>・数理最適化のための定式化について理解し, 実装できる。</li> <li>・スケジューリングアルゴリズム, 最適化アルゴリズム, 意思決定アルゴリズムなどの発展型アルゴリズムを用いての離散最適化問題を解くことができる。</li> </ul>				
授業の進め方・方法	<p>プレゼンスライドと黒板板書の両方を使った講義形式でおこなう。 小セクションごとに演習問題を与える。 定期試験直前には総合的な演習を行う。 暗記ではなく論理の積み重ねで問題を考える習慣をつける。</p> <p>成績評価方法: 定期試験の成績で行う。 合否判定: 最終評価 (または再試験の素点) <math>\geq 60\%</math>を合格とする。</p>				
注意点	基本的な離散数学の知識が必要である。 手続き型プログラミング言語の知識があること。 講義は基本的にプロジェクトを利用して行う。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	スケジューリング手法 1	ジョンソン法を用いた2機械最適化スケジューリング問題を解くことができる。	
		2週	スケジューリング手法 2	ジョンソン法を用いた3機械最適化スケジューリング問題を解くことができる。	
		3週	スケジューリング手法 3	工程表からアローダイアグラムを設計できる。	
		4週	スケジューリング手法 4	最早 (遅) 結合点時刻, 各アクティビティの開始・終了時刻を導出できる。	
		5週	スケジューリング手法 5	工程表から各アクティビティの余裕時間とクリティカルパスを導出できる。	
		6週	資源最適化手法 1	最大化問題・最小化問題の定式化とグラフを使った解法を説明できる。	
		7週	資源最適化手法 2	シンプレックス法を用いて最大化問題を解くことができる。	
		8週	資源最適化手法 3	双対法を用いてシンプレックス法を用いて最小化問題を解くことができる。	
	2ndQ	9週	輸送計画手法 1	0,1-整数計画法の定式化について説明できる。	
		10週	輸送計画手法 2	0,1-整数計画法の初期解と最適解を導出できる。	
		11週	意思決定手法 1	各種基準による意思選択の決定を行うことができる。	
		12週	意思決定手法 2	2人ゼロ和ゲームの鞍点とゲームの値を導出できる。	
		13週	意思決定手法 3	鞍点の存在しない2人ゼロ和ゲームの最適解を導出できる。	
		14週	経済計算 1	金利計算の概念と終価係数・現価係数について説明できる。	

		15週	経済計算 2	年金現価係数・年金終価係数・減債基金係数・資本回収係数について説明できる				
		16週	期末試験	この講義の理解度・目標達成度を確認するため、試験を実施する。				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	100	0	100	専門的能力	100	0	100	

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	設計支援システム	
科目基礎情報						
科目番号	0013	科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電子情報システム工学専攻	対象学年	専1			
開設期	後期	週時間数	2			
教科書/教材	テキストは使用しない 参考書:デザイン論(岩波講座 田中央著) 参考書:デジタルイメージング(創造工学) (CG-ART協会) 参考書:デジタル映像表現(CG-ART協会) 自学自習用の問題集はなし					
担当教員	千葉 忠弘					
到達目標						
デザインとは何かを理解できること。 さまざまなモデリング手法を理解できること。 カメラ、光源設定、基本的なレンダリング手法について理解できること。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
デザインとは何かを理解できる	デザインの本質、そのプロセスを説明できる	デザインとは何かを簡潔に説明できる	デザインとは何かを説明できない			
CGにおけるモデリング手法を理解できる	CGにおける基本的モデリング、複雑形状のモデリング手法を説明できる	CGにおける基本的モデリング手法を簡潔に説明できる	CGにおける基本的モデリング手法を説明できない			
CGにおけるカメラ、光源設定、基本的なレンダリング手法について理解できる	CGにおけるカメラ、光源設定、基本的なレンダリング手法について説明でき、CGソフトで設定ができる	CGにおけるカメラ、光源設定、基本的なレンダリング手法について簡潔に説明できる	CGにおけるカメラ、光源設定、基本的なレンダリング手法について説明できない			
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 C JABEE d-1						
教育方法等						
概要	現在設計図書は、ほぼ全てCADデータ化している。設計の初期段階(構想段階)も次第にペーパーレス化しつつある。そこで、本講義は、まず支援されるデザインの本質について述べる。続いて仮想現実における設計手法に関して、モデリング中心に講義する。さらにネットワークを用いたコラボレーション設計、CLAS、データ交換などについても言及する。					
授業の進め方・方法	準備する用具はない。 基本的なCG技術に関して学習するので、専門知識は必要としない。 FreewareのCGソフトを中心に利用するので、各自のパソコンにインストールし、自宅等で時間をかけて課題に取り組むこと。5つの課題の提出を予定している。課題提出が履修の条件である。 定期試験が60点以上、かつ全課題の提出が合格の条件である。最終成績は定期試験50%、課題50%で評価する。再試験は、60点以上で合格とする。 釧路高専目標 C:100% JABEE目標 d-1 前関連科目:なし 後関連科目:デジタルイメージ					
注意点	FreewareのCGソフトを各自のパソコンにインストールし課題に取り組むこと。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標		
		1週	デザインとは何か(工学におけるデザイン論)	デザインとは何か理解できる		
		2週	デザインとは何か(工学におけるデザイン論)	デザインとは何か理解できる		
		3週	モデリングの概念、建築設計におけるモデリング、CAD設計について	モデリングとは何かを理解できる 2次元CADと3次元CADの違いを理解できる		
		4週	CGのなかのモデリングの理解	CGのなかのモデリングを理解できる		
		5週	CGのなかのモデリングの理解	CGのなかのモデリングを理解できる		
		6週	優れた既製デザインのモデリング作成	優れた既製デザインのモデリングができる		
		7週	優れた既製デザインのモデリング作成	優れた既製デザインのモデリングができる		
	4thQ	8週	複雑な形状のモデリング(後期中間試験は実施しない)	形や樹木のモデリング手法が理解できる		
		9週	カメラ、光源について	CGのカメラ設定、光源設定が理解できる		
		10週	基本的なレンダリング技法と演習	レイトレースの方法と性質を理解できる		
		11週	基本的なレンダリング技法と演習	レイトレースの方法と性質を理解できる		
		12週	構想段階のモデリング演習	コンセプトづくりからモデリングを作成できる		
		13週	構想段階のモデリング演習	コンセプトづくりからモデリングを作成できる		
		14週	コラボレーションによるデザイン	コラボレーション設計の特性と事例を理解できる		
		15週	CLASについて BIMについて	CLASの基礎知識と仕組みを理解できる BIMの目的と基本的理念について理解できる		
16週	後期末試験:実施する					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ その他	合計

総合評価割合	50	0	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	50	0	0	0	50	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	アドバンスプログラミング	
科目基礎情報							
科目番号	0014		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	松下「POV-Rayで学ぶはじめての3DCG制作」講談社, ISBN978-4-06-153827-6/担当教員オリジナル実習用ウェブページ/参考書:「とほほのWWW入門」, <a href="https://www.tohoho-web.com/www.htm">https://www.tohoho-web.com/www.htm</a>						
担当教員	柳川 和徳						
到達目標							
<p>1. 複数の任意形状からなる複雑な3D-CGシーンのアニメーション生成処理を効率的に (POV-Rayの制御構造やマクロ等を適切に利用してコンパクトかつ短期間に) 記述できる.</p> <p>2. 対話的 (ユーザの入力操作に応じて動的にページを生成可能) なウェブブラウザアプリケーションを効率的に (JavaScriptの機能を適切に利用してコンパクトかつ短期間に) 開発できる.</p>							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	複雑な3D-CGシーンのアニメ生成処理を効率的に記述できる.		複雑な3D-CGシーンのアニメ生成処理を記述できる.		3D-CGシーンのアニメ生成処理を記述できない.		
評価項目2	対話的なブラウザアプリを効率的に開発できる.		対話的なブラウザアプリを開発できる.		ウェブページ生成処理を記述できない.		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 C JABEE d-1							
教育方法等							
概要	3D-CGアニメーション制作およびウェブブラウザアプリケーション開発の講義・実習を通じて、プログラミング能力 (作業を自動化・省力化する能力、アイデアを実現・改善する能力) の修得を目的とする。 プログラミング言語として、アニメ制作にはPOV-Ray、アプリ開発にはJavaScript (JS) を利用する。						
授業の進め方・方法	授業方法: 計算機実習併用型講義 評価方法: 試験 (定期試験または再試験) ×50% + 自由制作 (2件) ×30% + 実習課題 (10件程度) ×20% 合否判定: 最終評価 ≥60% を合格とする。 関連科目: アドバンスコンピューティング						
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての課題に対し、完全なレポートを所定の期限までに提出すること。欠席した場合にも復帰時に必ず取り組むこと。</li> <li>実習では極力、GUIに頼らず、キーボード操作による作業を中心とする。したがって、本科目を受講するためには、最低限のタイピング能力が要求される。</li> <li>本科目は、CGやアプリの単なる作成のみを目的とするものではない。作業の効率化を目的とする。CGやアプリは単なる手段 (例題) にすぎない。</li> <li>計画の立案・遂行の能力もまたプログラミング能力である。</li> <li>本科目は学修単位科目であるため、授業時間2倍相当の自主学習 (授業の予習・復習を含む) が必要である。</li> </ul>						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス, 実習環境整備	指示に従って実習用計算機環境を整備できる。			
		2週	POV-Rayによる3D-CGアニメーションの制作	指示に従って3D-CGの作成を実践できる。			
		3週	(前週の続き)	基本的なモデル/シーンを作成できる。			
		4週	(前週の続き)	基本的なアニメーションを自動生成できる。			
		5週	(前週の続き)	複雑なモデル/シーンを自動生成できる。			
		6週	(前週の続き)	独自の発想によって複雑な3D-CGアニメを制作できる。			
		7週	(前週の続き)	(前週と同じ)			
		8週	中間試験	第2週から第7週までの学習成果を提示できる。			
	2ndQ	9週	JSによるウェブブラウザアプリケーションの開発	HTMLとCSSでウェブページを作成できる。			
		10週	(前週の続き)	JSでウェブページを自動生成できる。			
		11週	(前週の続き)	JSでユーザインタフェースを実現できる。			
		12週	(前週の続き)	指示に従ってブラウザアプリの開発を実践できる。			
		13週	(前週の続き)	(前週と同じ)			
		14週	(前週の続き)	独自の発想によってブラウザアプリを開発できる。			
		15週	(前週の続き)	(前週と同じ)			
		16週	期末試験	第9週から第15週までの学習成果を提示できる。			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	0	0	0	50	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	50	0	0	0	50	0	100
---------	----	---	---	---	----	---	-----

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	アドバンストコンピューティング
科目基礎情報					
科目番号	0015	科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子情報システム工学専攻	対象学年	専1		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	教科書: ウェブページで説明とレポート出題を行う 参考書: 川口直樹著 入門ビジュアル・コンピューティング ここからはじめるUNIX (日本実業出版社) Dale Dougherty, Arnold Robbins著 福崎俊博訳 sed & awk プログラミング 改訂版 (オーム社) Dave Thomasら著 田和 勝訳 プログラミング Ruby 第2版 言語編 (オーム社)				
担当教員	林 裕樹				
到達目標					
コマンドシェルで、ファイルやディレクトリに対する操作ができる。 awkを使ったデータ処理ができる。 Rubyを使ったデータ処理ができる。 Pythonの基礎的なプログラミングが分かる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	コマンドシェル上で、ファイル操作やディレクトリを使った整理ができる。	コマンドシェル上で、ファイル一覧の確認やコマンドの実行ができる。	コマンドシェル上で、ファイル一覧の確認もコマンドの実行もできない。		
評価項目2	awkで複数の項目を使うような統計処理ができる。	awkのスクリプトで簡単な処理を実行できる。	awkを実行できない。		
評価項目3	Rubyでファイル入出力を使うなどの複雑な処理ができる。	Rubyのスクリプトで簡単な処理を実行できる。	Rubyを実行できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 C JABEE d-1					
教育方法等					
概要	コンピュータで定型的な作業を効率良く実行できるように、GUI環境でのマウスによる操作ではなく、CUI環境での操作を修得することを目標とする。 コマンドシェルによって多数のファイルに対する連続操作を自動化するなど、CUI環境ならではの効率の良い作業の方法を学ぶ。				
授業の進め方・方法	毎回出される課題を遂行し、コマンドシェルを通したコンピュータの操作を身につけていく。 前関連科目: アドバンストプログラミング 評価は、すべての課題が十分な内容で提出されたうえで、各課題の評価の平均が60点以上を合格とする。 ただし、レポートの提出状況などによって最大10%の範囲で評価を加減する。				
注意点	プログラミングについての極基本的な事項を理解し、キーボードによる文字の入力がある程度できることが望ましい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	コマンドシェル環境の基本とテキストエディタの使い方	コマンドシェルとテキストエディタの基本的な使い方を実践できる	
		2週	ディレクトリツリーとファイル操作	ディレクトリのツリー構造を説明できる	
		3週	さまざまなコマンド	コマンドの調べ方や使い方が説明できる	
		4週	シェルスクリプト	シェルの基本的な動作や簡単なシェルスクリプトの作成方法が説明できる	
		5週	シェルスクリプト	ループやコマンドライン引数を用いたシェルスクリプトを作成できる	
		6週	シェルスクリプト	パス名の展開や関数定義、コマンドの結果を使った条件分岐ができる	
		7週	awk	awkの動作モデルが説明できる	
		8週	awk	入力の扱い方やawkスクリプトの作成方法が説明できる	
	4thQ	9週	Ruby	Rubyをインタラクティブに使う方法や、簡単なプログラミングの方法が説明できる	
		10週	Ruby	Rubyスクリプトの作成方法や、基本的なプログラムの要素が説明できる	
		11週	Ruby	標準入出力やファイル入出力の使い方が説明できる	
		12週	Python	Pythonの基本的なスクリプトの作成と実行の方法が説明できる	
		13週	Python	Pythonの基本的なプログラムの要素や入出力の使い方が説明できる	
		14週	総合課題	与えられた課題をシェルやawk、Ruby、Pythonを使って解決できる	
		15週	総合課題	与えられた課題をシェルやawk、Ruby、Pythonを使って解決できる	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	デザインプロポーザル
科目基礎情報					
科目番号	0016		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	[参考書] 1. 一般社団法人全国高等専門学校連合会編, デザコン official book, 建築資料研究社. 2. 仙台建築都市学生会議+せんだいメディアテーク編, 卒業設計日本一決定戦 official book, 建築資料研究社. 3. 新建築 各号, 新建築社. [教科書, 問題集] 作品を制作する科目のため設定はしない				
担当教員	平澤 宙之				
到達目標					
評価項目1: デザコンの設計課題に対して、計画案をまとめることができる。 評価項目2: 計画案について、ポスターとスライドを用いてプレゼンテーションができる。 評価項目3: 個人・グループ作業において、積極的に行動できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	デザコンの設計課題に対して、計画案をまとめることができ、それが魅力的なものである。	デザコンの設計課題に対して、計画案を適切にまとめることができる。	デザコンの設計課題に対して、計画案をまとめることができない。		
評価項目2	計画案について、スライド、ポスターを用いて効果的なプレゼンテーションができる。	計画案について、スライド、ポスターを用いてわかりやすいプレゼンテーションができる。	計画案について、スライド、ポスターを用いてプレゼンテーションができない。		
評価項目3	個人・グループ作業において計画的かつ積極的に行動できる。	個人・グループ作業において、積極的に行動できる。	個人・グループ作業において、協力して行動できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 D 学習・教育到達度目標 E 学習・教育到達度目標 F JABEE d-3 JABEE e JABEE f JABEE i					
教育方法等					
概要	全国高等専門学校デザインコンペティション (デザコン) の設計課題に応募することを通じ、デザインとプレゼンテーションの能力向上を目指す。 そのためにも積極的なフィールド調査やエスキスを行い、中間、最終発表以外にも個別指導の際の資料、構想の提示を求める。基本的な作図能力はもちろんのこと、スケッチ能力や各種画像処理ソフトウェアを利用した表現能力は必須である。そのほか、文章力や情報収集能力が重要となる。				
授業の進め方・方法	授業では、デザコンに出品するための作品の制作を行ってもらう。学修単位であることから時間外にも制作してもらうことを想定している。制作内容によっては模型材料が必要となる場合がある。 作品を制作するにあたっては、当科目に関連する建築設計演習 I～IV、特別設計演習で習得する建築製図や模型制作に関する技術を必要とする。 授業中に2回の発表を求める。点数の内訳は中間発表はプレゼンテーション: 10点、作品内容: 20点、最終発表はプレゼンテーション: 20点、作品内容: 50点である。 合否判定について、中間発表と最終発表の点数の合計が60点以上で合格とする。 成績評価は評価割合の欄の通りである。				
注意点	原則として個人で取り組むことを基本とするが、デザコンのテーマや条件を勘案してグループ構成とする場合もある。グループを組む場合は当科目を履修している者のみでメンバーを構成することとする。 授業中は、無断で講義室から出ないこと。 授業や配布資料は主に日本語にて提供する。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	当科目の目的やデザコンの主旨、設計課題の内容について理解できる。	
		2週	調査・計画	取り組む設計課題に関する条件の整理、計画のための調査ができる。	
		3週	エスキス1	企画・構想した内容を適切に表現することができる。	
		4週	エスキス2	企画・構想した内容を適切に表現することができる。	
		5週	エスキス3	企画・構想した内容を適切に表現することができる。	
		6週	エスキス4	調査結果・計画内容を踏まえて中間発表用の資料を作成できる。	
		7週	エスキス5	調査結果・計画内容を踏まえて中間発表用の資料を作成できる。	
		8週	中間発表 (実施しない)	デザコン提出に向けた作品をポスター・スライドを用いて的確に表現できる。	
	2ndQ	9週	作品の制作1	中間発表での講評を踏まえて作品を改善することができる。	
		10週	作品の制作2	中間発表での講評を踏まえて作品を改善することができる。	
		11週	作品の制作3	中間発表での講評を踏まえて作品を改善することができる。	
		12週	作品の制作4	中間発表での講評を踏まえて作品を改善することができる。	
		13週	作品の制作5	中間発表での講評を踏まえて作品を改善することができる。	

	14週	作品の制作6	中間発表での講評を踏まえて作品を改善することができる。
	15週	最終発表	出品した作品について、ポスター・スライドを使用し 的確に表現できる。
	16週	(前期中間試験、前期末試験ともに実施しない)	

### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

#### 評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	20	10	10	60	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	20	10	10	60	0	100

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	電子情報システム工学特別ゼミナールⅠ
科目基礎情報					
科目番号	0017	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	電子情報システム工学専攻	対象学年	専1		
開設期	後期	週時間数	後期:2		
教科書/教材	各指導教員の指示による。				
担当教員	高 義礼				
到達目標					
適切な方法により効率的な論文検索ができる。適切な方法により効率的な情報収集ができる。調査結果を適切に発表できる。地域の産業や社会の抱える課題それに対処するための必要な能力の理解ができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B 学習・教育到達度目標 D 学習・教育到達度目標 G JABEE a JABEE b JABEE d-4 JABEE e JABEE g JABEE h					
教育方法等					
概要	特別研究に関連した文献調査、プレゼンテーション技術を修得し、地域の産業や社会の抱える課題やそれに対処するための必要な能力を修得することを目的とする。文献調査に関しては、各自、与えられたテーマに従って調査し、その内容を発表することにより、特別研究のための調査技術、プレゼンテーション技術の修得を目指す。				
授業の進め方・方法	電子ジャーナルによる論文調査、ネットを利用した情報収集、図書館の利用、様々な手法によって必要な情報を収集・分析し、さらにそれらをまとめて発表する。また、発表後の質疑応答に参加する。さらに、周辺・境界領域の知識や地域の産業や社会の抱える課題とそれに対処する能力を修得する。これらの作業は特別研究における自分の研究作業のための訓練として重要である。成績評価方法：文献調査プレゼンテーション（複数教員）（100%）				
注意点	特別ゼミナールⅠおよびⅡのうちで、必ず1回は英語の文献を用いること。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンスの実施		
		2週	特別研究に関連した文献調査テーマの決定	与えられる文献調査テーマに従って、文献調査できる。	
		3週	特別研究に関連した文献調査	与えられる文献調査テーマに従って、文献調査できる。	
		4週	特別研究に関連した文献調査	与えられる文献調査テーマに従って、文献調査できる。	
		5週	特別研究に関連した文献調査	与えられる文献調査テーマに従って、文献調査できる。	
		6週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。	
		7週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。	
	4thQ	8週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。	
		9週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。	
		10週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。	
		11週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。	
		12週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。	
		13週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。	
		14週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。	
		15週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。	
16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	文献調査プレゼンテーション			合計	
総合評価割合	100	0	0	100	

基礎的能力	0	0	0	0
專門的能力	100	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	創造特別実験 I
科目基礎情報					
科目番号	0018		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	実験		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	後期:3	
教科書/教材	特になし。各テーマごとに資料配付。				
担当教員	前田 貴章,三森 敏司,佐藤 彰治,大槻 香子,中井 陽子,千葉 忠弘				
到達目標					
1. 専門分野で履修してきた基礎的な知識をベースに、テーマに応じた分析能力を身につける。 2. 自発的にテーマに取り組むことができ、問題の解決策を見つけ出すことができる。 3. グループによる共同作業を行うテーマでは、コミュニケーションをとることができる。 4. 成果を整理し、発表することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	課題を理解し、解決のための計画をたてること出来る	課題を理解することができる	課題を理解することができない		
評価項目2	計画に沿って自主的に解決に向けて取り組むことができる	計画に沿って取り組むことができる	計画に沿って取り組むことができない		
評価項目3	他者の意見をまとめ、結果を導き出すためのコーディネートができる	他者の意見を聞き、議論することができる	議論に参加することができない		
評価項目3	成果をまとめ、自分の考えをもとにプレゼンテーションできる	成果をまとめ、プレゼンテーションできる	成果をまとめ、プレゼンテーションできない		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 D 学習・教育到達度目標 E JABEE d-2 JABEE d-3 JABEE e JABEE h JABEE i					
教育方法等					
概要	複数の課題に対して、多面的にとらえ、問題意識を持ってデザイン能力を発揮し、プレゼンテーションや作品を通じて成果を発表できることを目的としている。				
授業の進め方・方法	前半部で、建築学分野教員が設定する2テーマどちらかに取り組む〔実験1：高強度モルタルコンテストを行う。実験2：校舎内外の居室等を対象とした環境実測調査〕（7回）。発表評価（50%）と成果物評価（50%）により評価を行う。 後半部では、機械工学分野教員が設定するテーマについて取り組む（8回）。製作物の設計図・概要を含むポートフォリオ（報告書）：60%、相互評価：20%、プレゼンテーション評価：20%として評価する。 前半後半、それぞれの評価を総合して合否判定を行い、60%以上を合格とし、この評価を最終評価とする。 再試験は実施しない。				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	建築分野教員担当 ガイダンス (実験1) 実験内容説明, グループ決め (実験2) 実験内容説明, グループ決め	(実験1) 実験概要が理解できる (実験2) 実験概要が理解できる	
		2週	(実験1) モルタルの調合設計・試練・製造・供試体作成 (実験2) 問題提起と実測方法の検討	(実験1) モルタルの調合設計手法が理解できる。 (実験2) 校舎内の環境問題についてグループで検討できる	
		3週	(実験1) モルタルの調合設計・試練・製造・供試体作成 (実験2) 実測計画書の作成	(実験1) モルタルの調合表・作成手順が説明できる (実験2) 実測の計画を文書にまとめることができる	
		4週	(実験1) モルタルの調合設計・試練・製造・供試体作成 (実験2) 実測計画書の作成, チェック	(実験1) モルタルの調合表・作成手順が説明できる (実験2) 実測の計画を文書にまとめることができる	
		5週	(実験1) モルタルの調合設計・試練・製造・供試体作成 (実験2) 実測調査の準備, 実測開始	(実験1) モルタルの調合表・作成手順が説明できる (実験2) 実験の準備が確実にできる	
		6週	(実験1) モルタル強度の測定・データの整理 (実験2) 実測・データの整理	(実験1) 強度の測定方法と結果の整理ができる (実験2) 実測結果の整理ができる	
		7週	(実験1) 発表・レポート作成 (実験2) 発表・レポート作成	(実験1) 適切なプレゼンができる。報告書をまとめることができる (実験2) 適切なプレゼンができる。報告書をまとめることができる	
		8週	機械分野教員担当 (実験) ガイダンス, 班構成	(実験) 3Dプリンタの概要と特性が理解できる	
	4thQ	9週	(実験) CAD解説とモデル設計	(実験) 3D-CADを用いて、簡単なモデルを作成できる	
		10週	(実験) モデル設計	(実験) 3D-CADを用いて、テーマに沿ったモデルを作成できる	
		11週	(実験) モデル設計	(実験) 3D-CADを用いて、テーマに沿ったモデルを作成できる	

		12週	(実験) モデル設計・資料作成	(実験) 3D-CADを用いて、テーマに沿ったモデルをモデルを作成できる。作成したモデルのプレゼンテーション資料を制作できる
		13週	(実験) モデル設計・資料作成	(実験) 3D-CADを用いて、テーマに沿ったモデルをモデルを作成できる。作成したモデルのプレゼンテーション資料を制作できる
		14週	(実験) プレゼンテーション	(実験) 成果をまとめ、プレゼンテーションができる
		15週	(実験) プレゼンテーション	(実験) 成果をまとめ、プレゼンテーションができる
		16週		

#### モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

#### 評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	電子情報システム工学特別研究 I
科目基礎情報					
科目番号	0019	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 8		
開設学科	電子情報システム工学専攻	対象学年	専1		
開設期	通年	週時間数	前期:8 後期:8		
教科書/教材	各指導教員の指示による				
担当教員	高 義礼				
到達目標					
論文調査などにより、研究の背景、社会のニーズなどを理解できる。問題解決を計画的に遂行できる。研究成果の社会への影響を考察できる。日本語による論理的な報告書作成とプレゼンテーションができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	研究の目的を十分に理解し、研究の背景や社会ニーズに関して自発的に情報収集や文献調査を行うことが出来る	研究の目的を理解し、研究の背景や社会ニーズに関して情報収集や文献調査を行うことが出来る	研究の目的を理解できず、それに関する情報集や文献調査ができない		
評価項目2	研究課題の解決に向けて自主的に計画をたてることができ、それに沿って計画を遂行できる	研究課題の解決に向けて計画をたてることができ、それに沿って計画を遂行できる	研究課題の解決に向けて計画をたてることができず、それに沿って計画を遂行できない		
評価項目3	研究課題に対する成果が社会におよぼす影響を十分に理解し、研究を遂行できる	研究課題に対する成果が社会におよぼす影響を理解し、研究を遂行できる	研究課題に対する成果が社会におよぼす影響を理解できない		
評価項目4	研究の流れや成果を自己表現を含めて論述的にまとめることができ、十分にプレゼンテーションができる	研究の流れや成果を論述的にまとめることができ、プレゼンテーションができる	研究の流れや成果をまとめることができず、プレゼンテーションができない		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 B 学習・教育到達度目標 D 学習・教育到達度目標 E 学習・教育到達度目標 F 学習・教育到達度目標 G JABEE d-2 JABEE d-3 JABEE d-4 JABEE e JABEE f JABEE g					
教育方法等					
概要	研究の遂行を通して高度な専門知識や実験技術を修得し、継続的に学習する能力を育成する。研究・設計などの活動における知識や技術の必要性を認識する。さら、研究遂行において修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、計画的に実行する能力。論文作成一研究発表により文章表現力、プレゼンテーション、コミュニケーション能力を育成する。				
授業の進め方・方法	特別研究は本科の卒業研究を含む3年間、あるいは、専攻科の2年間を通して一つの課題に取り組むものであり、長期間にわたる指導教員の指示だけでなく、自発的に計画的に遂行することに心がけること。別紙の評価方法によって評価する。60点以上で合格である。長期に渡り、一つのテーマを追求するので、自発的な学習、創造性の発揮、計画的な遂行が重要である。指導教員との話し合いを密にし、定常的な学習・研究が必要である。				
注意点					
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	各研究室におけるガイダンス	研究課題を設定できる。	
		2週	ゼミ、文献調査、情報収集等	研究の背景や社会ニーズに関して調査できる。	
		3週	ゼミ、文献調査、情報収集等	研究の背景や社会ニーズに関して調査できる。	
		4週	ゼミ、文献調査、情報収集等	研究の背景や社会ニーズに関して調査できる。	
		5週	ゼミ、文献調査、情報収集等	研究の背景や社会ニーズに関して調査できる。	
		6週	ゼミ、研究計画の立案等	研究内容に沿って計画を立案できる。	
		7週	ゼミ、研究計画の立案等	研究内容に沿って計画を立案できる。	
		8週	前期中間試験	実施しない	
	2ndQ	9週	ゼミ、研究計画の立案等	研究内容に沿って計画を立案できる。	
		10週	ゼミ、研究計画の立案等	研究内容に沿って計画を立案できる。	
		11週	ゼミ、研究環境の構築等	研究に必要な環境を整備・構築できる。	
		12週	ゼミ、研究環境の構築等	研究に必要な環境を整備・構築できる。	
		13週	ゼミ、研究環境の構築等	研究に必要な環境を整備・構築できる。	
		14週	ゼミ、基礎実験、解析等	研究に必要な基礎実験、解析ができる。	
		15週	ゼミ、基礎実験、解析等	研究に必要な基礎実験、解析ができる。	
		16週	前期末試験	実施しない	
後期	3rdQ	1週	ゼミ、基礎実験、解析等	研究に必要な基礎実験、解析ができる。	
		2週	ゼミ、基礎実験、解析等	研究に必要な基礎実験、解析ができる。	
		3週	ゼミ、基礎実験、解析等	研究に必要な基礎実験、解析ができる。	
		4週	ゼミ、基礎実験、解析等	研究に必要な基礎実験、解析ができる。	
		5週	ゼミ、基礎実験、解析等	研究に必要な基礎実験、解析ができる。	
		6週	ゼミ、基礎実験、解析等	研究に必要な基礎実験、解析ができる。	
		7週	ゼミ、基礎実験、解析等	研究に必要な基礎実験、解析ができる。	

4thQ	8週	後期中間試験	実施しない
	9週	ゼミ、基礎実験、解析等	研究に必要な基礎実験、解析ができる。
	10週	ゼミ、基礎実験、解析等	研究に必要な基礎実験、解析ができる。
	11週	実験解析結果等の考察	実験解析結果の論理的な考察ができる。
	12週	実験解析結果等の考察、まとめ	実験解析結果の論理的な考察ができる。
	13週	研究論文作成	研究論文を計画的に作成できる。
	14週	研究論文作成	研究論文を計画的に作成できる。
	15週	研究成果の発表	研究成果を図、表を用いて纏めて発表することができる。
	16週	後期期末試験	実施しない

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	インターンシップ I	
科目基礎情報						
科目番号	0020		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	実習		単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	学内制作/専攻科生対象「インターンシップ指導書」、および受け入れ先で配布される資料。					
担当教員	佐川 正人,高橋 剛					
到達目標						
就業体験を通じ、技術者としての素養を磨く(与えられた課題の解決を期間内に計画的に進めることができる。グループ作業において自分の役割を積極的に果たすことができる。) 実社会における技術への要請、必要性を認識する(社会が要求する科学技術を認識できる。科学技術が社会に及ぼす影響を認識できる。)						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	与えられた課題の解決を期間内に計画的に進めることができる。	与えられた課題の解決を期間内に積極的な指導を受けると計画的に進めることができる。	与えられた課題の解決を期間内に積極的な指導を受けても計画的に進めることができない。			
評価項目2	グループ作業において自分の役割を積極的に果たすことができる。	グループ作業において自分の役割を限定的に果たすことができる。	グループ作業において自分の役割を限定的にでき果たすことができない。			
評価項目3	社会が要求する科学技術を認識できる。	社会が要求する科学技術を丁寧な解説付きで認識できる。	社会が要求する科学技術を丁寧な解説付きでも認識できない。			
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 B 学習・教育到達度目標 D 学習・教育到達度目標 E 学習・教育到達度目標 F JABEE a JABEE b JABEE d-4 JABEE e JABEE f JABEE h						
教育方法等						
概要	企業、官庁、国公立大学および試験研究機関において、現場指導者の監督のもとに実務に参加し、実践的技術者となるための素養を磨く。また、技術に対する社会の要請、研究・設計・生産・試験・保守などの活動における知識や技術の必要性を認識し、これらの活動を公衆の健康・安全、文化、経済、環境、倫理の観点で考察すると共に自分の進路を考察する機会を持つこと。					
授業の進め方・方法	インターンシップ I は必修で勤務期間 5 日間または勤務時間33.75時間以上必要。尚、受け入れ企業等の事情により勤務時間に達しなかった場合は、代替手段で不足時間を補填することになる。単位取得要件：①インターンシップ前の事前説明会(4月)と事前講習会(7月)の出席、②終了後、インターンシップ報告会での発表。成績評価方法：企業からの評定書の評価50%、報告会における複数教員の評価50%として、100点満点で評価し、60点以上を合格とする。社会人経験者の場合、条件を満たせばインターンシップは免除されるが、その場合でも就業内容をまとめ、報告会にて同様に発表しなければならない。					
注意点	インターンシップ先を自己開拓した場合、学校がインターンシップ先として適切か否か判断し、妥当となれば学校からインターンシップ先に連絡し、連携を図ることになります。インターンシップを通して、自分の適性を一層理解し、自分の将来の進路に役立てることが目的です。報酬や対価の取得を目的としたアルバイトではないことを肝に銘じ真摯に取り組んで下さい。なお、報告会で使用する写真や資料は、受け入れ先の許可が必要です。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1)受け入れ先機関の調査およびマッチング検討(随時)	1)受け入れ可能な機関を提示し、希望調査・調整により受け入れ先を決定できる。		
		2週	2)事前説明会(4月頃, 45分程度)・・・出席必須	2)インターンシップの意義や目的・狙いを理解する。インターンシップに関する諸事情を理解できる。		
		3週	3) 受け入れ先の確保(5~7月頃)(随時)	3)自己開拓も含め受け入れ先を決定し、申し込みし、確保できる。		
		4週	4) 事前講習会(7月頃, 45分程度)・・・出席必須	4) ビジネスマナー、企業秘密の遵守、通勤時および作業時の自己への対応等、一般的な注意事項を理解できる。		
		5週	5)インターンシップ実施	5)受け入れ先において、指示を理解し、適切に対応し、期限を守って成果を出すことができる。		
		6週	6)インターンシップ報告書の提示	6)適切なインターンシップ報告書を作成し、提出できる。		
		7週	7)インターンシップ報告会(一般的に10~12月で一回)	7)実習内容、得られた成果など、インターンシップの経験を報告会において発表できる。		
		8週	定期試験は実施しない			
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				

		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
		4thQ	9週		
			10週		
	11週				
	12週				
	13週				
	14週				
	15週				
	16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	50	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	50	50	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	プラズマ工学
科目基礎情報					
科目番号	0021		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: プラズマエレクトロニクス 著者: 菅井秀郎 発行所: オーム社参考書: 高電圧工学 著者: 植月唯夫他 発行所: コロナ社参考書: プラズマエレクトロニクス 著者: 眞壁利明 発行所: 培風館				
担当教員	佐々木 敦				
到達目標					
(1) プラズマの性質が理解できる。 (2) プラズマの発生原理が理解できる。 (3) プラズマの応用技術について理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	プラズマの性質とその理由が理解できる		プラズマの性質が概ね理解できる		プラズマの性質が理解できない
評価項目2	プラズマの発生原理と利点・欠点が理解できる		プラズマの発生原理が概ね理解できる		プラズマの発生原理が理解できない
評価項目3	プラズマの応用技術が理解でき、応用例を説明できる		プラズマの応用技術が概ね理解できる		プラズマの応用技術が理解できない
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 D JABEE d-1					
教育方法等					
概要	物質の第4の状態である、プラズマについての知識を習得する。プラズマの物理的・化学的性質や発光現象について理解する。プラズマは蛍光灯やエレクトロニクスをはじめとする種々の工業に広範囲に応用されており、これらの応用についても理解する。この科目は企業で医療機器の開発を担当していた教員がその経験を活かし、粒子の相互作用や気体の放電理論について講義形式で授業を行うものである。				
授業の進め方・方法	高電圧工学分野における、粒子の衝突過程、気体の放電現象に関する知識が必要である。プラズマの応用に関して、各自調査しプレゼンテーションを行う。 合否判定: 2回の定期試験の平均点が60点を超えていること。 最終評価: 2回の定期試験の平均点とする。 本科で学んだ気体放電現象の基本は、復習的に教授する。プラズマの発生および応用に関しては、主に現象論に重点をおいて授業展開する。				
注意点	本科目は学修単位科目であるため、授業時間相当の自主学習(授業の予習・復習を含む)を行う必要がある。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	プラズマの性質	プラズマの性質を理解できる。	
		2週	粒子の衝突	衝突断面積, 平均自由行程を理解できる。	
		3週	原子の励起と電離	原子の内部エネルギー, 電離を理解できる。	
		4週	分子の励起・解離・電離	分子の内部エネルギー, 衝突を理解できる。	
		5週	放電によるプラズマの発生 1 気体の絶縁破壊	気体の絶縁破壊を理解できる。	
		6週	放電によるプラズマの発生 2 タウンゼント理論	タウンゼント理論を理解できる。	
		7週	放電によるプラズマの発生 3 ストリーマ理論	ストリーマ理論を理解できる。	
		8週	中間試験		
	4thQ	9週	各種放電プラズマ 1 直流放電	直流放電を理解できる。	
		10週	各種放電プラズマ 2 グロー放電	グロー放電を理解できる。	
		11週	各種放電プラズマ 3 アーク放電	アーク放電を理解できる。	
		12週	各種放電プラズマ 4 コロナ放電	コロナ放電を理解できる。	
		13週	プラズマの応用 1 プラズマCVD	プラズマCVDの原理を理解できる。	
		14週	プラズマの応用 2 半導体製造	LSIの製造プロセスを理解できる。	
		15週	プラズマの応用 3 オゾナイザ等	コピー機, プラズマディスプレイ, オゾナイザ等のプラズマ応用技術の原理を理解できる。	
		16週	期末試験		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	デジタル通信概論		
科目基礎情報								
科目番号	0022		科目区分	専門 / 選択				
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2				
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1				
開設期	後期		週時間数	2				
教科書/教材	教科書: デジタル通信 第2版, スカラー, ピアソン・エデュケーション参考書: Modern Digital and Analog Communication Systems, B.P.Lathi, Oxford 精説GPS, Pratap Mista and Per Enge, 正陽文庫 わかりやすい OFDM技術, 伊丹誠, オーム社							
担当教員	山形 文啓							
到達目標								
1. デジタル通信技術を理解している 2. スペクトラム拡散技術を理解している 3. OFDM技術を理解している								
ループリック								
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安			
デジタル通信技術	デジタル通信技術の応用的な技術を理解している		デジタル通信技術の標準的な技術を理解している		デジタル通信技術の基本的な技術を理解していない			
スペクトラム拡散技術	スペクトラム拡散技術の標準的な原理を理解している		スペクトラム拡散技術の標準的な技術を理解している		スペクトラム拡散技術の基本的な技術を理解していない			
OFDM技術	OFDM技術の応用的な技術を理解している		OFDM技術の標準的な技術を理解している		OFDM技術の基本的な技術を理解していない			
学科の到達目標項目との関係								
学習・教育到達度目標 D JABEE d-1								
教育方法等								
概要	現代の電子機器は単独で動作するのみならず、有線・無線問わず通信インタフェースを求められることが多くなっている。また、接続規格もUSB(Universal Serial Bus)3.1Gen2など10Gbit/secを超える伝送速度を持つため、設計・評価にはデジタル通信技術への理解が必須となる。本講義では、スペクトラム拡散技術とOFDM(Orthogonal Frequency Division Multiplexing)技術をターゲットとして、デジタル通信技術の基礎知識を身につけることを目標とする。							
授業の進め方・方法	合否判定 : 1回の定期試験の結果が100点満点で60点以上であること 最終評価 : 1回の定期試験の結果 (100%)							
注意点	通信技術では信号を周波数領域と時間領域の両方の側面からとらえることが必要であるため、フーリエ変換の知識を前提とする。その他必要な数学的知識は講義中に随時取り上げる。通信技術は、電磁波の伝搬やデバイスの動作限界、符号理論や情報理論など、物理学と数学の幅広い領域を基礎として成立している。様々な分野を広く理解することが必要のため、粘り強く努力してほしい。							
授業の属性・履修上の区分								
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業		
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	ガイダンス			通信の基礎的ルールについて理解できる		
		2週	通信回路の基本的構成			通信回路の基本的構成について理解できる		
		3週	雑音と誤り率(1)			雑音の種類と確率論による取り扱い方が理解できる。		
		4週	雑音と誤り率(2)			雑音が誤りの発生に及ぼす影響が理解でき、その度合いを算出できる。		
		5週	帯域制限と誤り率(1)			帯域制限の必要性が理解できる。帯域制限が誤り率に及ぼす影響が理解できる。		
		6週	帯域制限と誤り率(2)			帯域制限の必要性が理解できる。帯域制限が誤り率に及ぼす影響が理解できる。		
		7週	各種 1 次変調方式(1)			各種 1 次変調方式について理解できる。		
	4thQ	8週	各種 1 次変調方式(2)			各種 1 次変調方式について理解できる。		
		9週	各種 1 次変調方式(3)			各種 1 次変調方式について理解できる。		
		10週	信号空間とコンスタレーション			信号空間の概念について理解できる。コンスタレーションとパワーアンプの効率の関係性が理解できる。		
		11週	スペクトラム拡散技術(1)			スペクトラム拡散技術について理解できる。		
		12週	スペクトラム拡散技術(2)			スペクトラム拡散技術について理解できる。		
		13週	スペクトラム拡散技術(3)			スペクトラム拡散技術について理解できる。		
		14週	OFDM技術(1)			OFDM技術について理解できる。		
		15週	OFDM技術(2)			OFDM技術について理解できる。		
16週	期末試験:実施する							
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週	
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100	

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	量子統計工学	
科目基礎情報							
科目番号	0023		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	参考書・問題集「江藤幹雄, 量子力学 I, (丸善出版)」 「原島鮮, 初等量子力学, (裳華房)」 「小出昭一郎, 量子力学 (I), (裳華房)」						
担当教員	井戸川 慎之介						
到達目標							
<p>評価項目1: 物質を微視的にとらえた場合の基礎的量子現象を説明できる。</p> <p>評価項目2: 水素原子モデルから電子状態を説明することができる。</p> <p>評価項目3: シュレディンガー方程式から量子数を説明することができる。</p>							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	物質を微視的にとらえた場合の基礎的量子現象を数学的、物理的に詳しく説明できる。		物質を微視的にとらえた場合の基礎的量子現象を数学的に説明できる。		物質を微視的にとらえた場合の基礎的量子現象を説明できない。		
評価項目2	水素原子モデルから電子状態を導出、計算ならびに説明をすることができる。		水素原子モデルから電子状態の導出、説明をすることができる。		水素原子モデルから電子状態を説明することができない。		
評価項目3	シュレディンガー方程式から量子数を導出ならびに説明ができ、考察をすることができる。		シュレディンガー方程式から量子数を導出、説明をすることができる。		シュレディンガー方程式から量子数を説明することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 D JABEE d-1							
教育方法等							
概要	現代社会では電子デバイスが身近に浸透している。電子デバイスの多くには半導体が用いられており、半導体の物性や電気的特性を知るためには、原子や電子の世界で考える必要がある。しかし、半導体を原子や電子などの微視的世界で見ると古典論などでは説明が困難である。そこで、量子力学によって古典論では説明が困難であった巨視的な現象について記述できるようになる。本授業では、半導体の物性、電気的特性の基礎となる量子力学について詳しく学ぶ。						
授業の進め方・方法	授業は座学形式で実施し、概要で示した目標理解を目指す。 最終評価: 1回の定期試験60%と演習(2回)40%の平均が60点以上であること。 (最終評定が60点未満の場合は再試験を行う。再試験は筆記試験で実施し、60点以上を合格とする。)						
注意点	講義は板書で行います。電磁気学や物理学などの基礎知識は必ず必要になります。基礎知識を理解しておいてください 自ら考え学習し、できるだけ自学自習の習慣を身につけてください。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標			
		1週	量子統計工学ガイダンス	量子統計工学のガイダンスを行う。			
		2週	量子力学の原理(1)	波動関数やシュレディンガー方程式を説明できる。			
		3週	量子力学の原理(2)	量子力学で用いる数学的手法を説明できる。			
		4週	箱の中の粒子(1)	1次元の無限井戸型ポテンシャルを計算できる。			
		5週	箱の中の粒子(2)	1次元の有限井戸型ポテンシャルを計算できる。			
		6週	箱の中の粒子(3)	3次元の箱の中の粒子を計算できる。			
		7週	まとめ演習	これまでの授業の復習を行う。			
	8週	前期中間試験:実施する	前期中間試験を行う。				
	2ndQ	9週	伝搬する粒子(1)	伝搬する粒子の透過・反射を計算できる。			
		10週	伝搬する粒子(2)	伝搬する粒子の透過・反射を計算できる。			
		11週	中心力場(1)	角運動量演算子を求めることができる。			
		12週	中心力場(2)	角運動量演算子を求めることができる。			
		13週	水素原子モデル(1)	水素原子の電子状態を求めることができる。			
		14週	水素原子モデル(2)	水素原子の電子状態を求めることができる。			
		15週	まとめ演習	これまでの授業の復習を行う。			
16週		前期期末試験:実施しない	レポート課題を提出。				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	40	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	60	0	0	0	0	40	100

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	計測工学特論
科目基礎情報					
科目番号	0024		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	参考書: 電気電子計測, 新妻弘明他 (朝倉書店) バイオマグネトロニクス, 瀧美和彦他 (オーム社) SQUID Sensors: Fundamentals and Applications, Harold Weinstock ed. (KluwerAcademic Publishers)				
担当教員	松本 和健				
到達目標					
1. 計測における信号と雑音の関係から, 計測システムを設計できる。 2. 超電導センサを用いた微小磁界計測における計測システムの問題点を理解できる。 3. 計測システムにおける周辺技術の技術的要求課題を理解できる。 4. S/N比の劣悪な環境下での計測データの取得方法を実験を通して理解できる。実験データと理論値を比較して誤差を評価し, 計測可能な分解能を検討できる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安(優)	標準的な到達レベルの目安(良)	未到達レベルの目安(不可)	
評価項目1		測定における雑音レベルから, 計測分解能を計算でき, 位置分解能などの制約条件によるトレードオフから適切な計測システムを設計できる。	測定における雑音レベルから, 計測分解能を計算できる。	測定における雑音レベルや, 計測分解能を理解できない。	
評価項目2		超電導センサを用いた微小磁界計測における計測システムの問題点を理解でき, 動作原理に基づいて解決方法を検討できる。	超電導センサを用いた微小磁界計測における計測システムの問題点を理解できる。	超電導センサを用いた微小磁界計測における計測システムの問題点を理解できない。	
評価項目3		計測システムにおける周辺技術の技術的要求課題を理解でき, 動作原理に基づいて解決方法を提案できる。	計測システムにおける周辺技術の技術的要求課題を理解できる。	計測システムにおける周辺技術の技術的要求課題を理解できない。	
評価項目4		S/N比の劣悪な環境下での計測データの取得方法を理解し, 実験データと理論値を比較して誤差を評価した結果から, 計測可能な分解能を検討できる。計測分解能の改善のための考察と改善方法を提案できる。	S/N比の劣悪な環境下での計測データの取得方法を理解し, 実験データと理論値を比較して誤差を評価した結果から, 計測可能な分解能を検討できる。	S/N比の劣悪な環境下での実験データと理論値を比較して誤差を評価した結果から, 計測可能な分解能を検討できない。	
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 D JABEE d-1					
教育方法等					
概要	この科目では, 本科で学習した計測工学, 電磁気学, 応用物理, 信号処理などの知識に基づいて, 信号と誤差の統計的な扱い, 信号と雑音の物理的な性質や時空間における性質とその処理方法といった基礎的な事項の理解を深めてもらう。また, 計測システムの設計を, 資料調査や演習課題を通じて修得してもらう。この科目は企業で計測システムの設計を担当していた教員が, その経験を活かし, 具体的な計測システムの設計課題を用いて演習形式で授業を行うものである。				
授業の進め方・方法	広範囲に応用され, 多くの計測手法がある最近の電子計測の技術の中から, 一つのトピック的な計測技術(生体磁気計測など)を取り上げる。電気電子工学, 情報工学で学んできた事, 特に電気回路, 電磁気学, 計測工学信号処理の知識を元にして, 不確かさの少ない信頼できる計測について学ぶ。 定期試験(年一回)[50%], 設計課題[20%], 実験レポート「30%」 上記項目を総合して100点満点とし最終評価とする。合否判定は定期試験が60点以上で合格とする。 遅進学生, 成績不振者に対して, 適宜, 課外の補習及び再試験を行う。 設計課題は, 要求した設計仕様の計測システムの達成程度で評価する。 英文献レポートは, 内容理解, 内容の要約, 関連事項の調査から総合的に評価する。 実験レポートは, 書き方, 内容, 実験条件・データの整理, 数値解析との比較, データの誤差評価, 考察, 期限から総合的に評価する。 今年度は, 生体の電磁界信号の計測をトピックとして取り上げる予定です。この分野の計測では, 比較的S/N比の確保が困難な分野になります。トピックとして取り上げた技術を理解することによって, 様々な計測分野に応用できるような力を修得することを期待します。				
注意点	本科で学習した, 電磁気学, 電気回路, 計測工学を用いて計測システムの設計を学習することで, その本質が理解できるようになります。今までに学習したことよりも抽象的な概念について学習することになりますが, 確実に理解するように努力してください。授業の演習や, 試験では関数電卓を使用して計算しますので, 必ず準備してください。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	生体磁気計測システムとその周辺技術の紹介	トピックで取り上げる生体磁気計測システムの構成と技術的要求事項の概要について理解できる。	
		2週	信号と雑音	磁界計測システムの設計に必要な基本的知識となる, 信号と雑音の物理的性質と解析的な取り扱い方, 技術的処理方法の関連について理解できる。	
		3週	雑音の時間的, 空間的性質	雑音の種類と計測分解能の関係について理解する。雑音の物理的性質を理解し, その除去方法を検討できる。	
		4週	超電導とその応用 超電導現象	電気伝導と超電導現象について理解できる。	

2ndQ	5週	超電導とその応用 磁束の量子化とその応用	超電導現象に基づいて、磁束が量子化されることを理解できる。 超電導現象の応用について理解できる。
	6週	SQUID磁束計（磁気センサ）の動作原理	磁気センサの動作原理とセンサ特性を決めるパラメータを理解できる。
	7週	SQUID磁束計の各種制約条件と設計パラメータ 熱雑音 キャパシタンス設計 インダクタンス設計	計測条件に適切なセンサ設計を理解できる。 センサの設計値を最適化するための各種無次元化パラメータの使い方を理解できる。
	8週	SQUID磁束計の各種制約条件と設計パラメータ 臨界電流値設定 抵抗値設計 磁束トランス設計 プリアンプの雑音 ※ 前期中間試験は実施しない	計測条件に適切なセンサ設計を理解できる。 パラメータの設計値を最適化するための各種無次元化パラメータの使い方を理解できる。
	9週	設計課題 SQUID磁束計の最適設計	与えられた計測条件に基づいて、要求される磁束分解能と位置分解のトレードオフを最適化するセンサを設計できる。
	10週	雑音除去方法 時間的除去手法 空間的除去手法	磁界計測におけるS/N比の改善に関する技術的手法について理解できる。
	11週	計測システムの周辺技術 動作原理と技術的要求事項と課題	生体磁界計測システムを構成する周辺技術の動作原理と課題、最近の技術動向を理解できる。
	12週	計測システムの周辺技術 最近の技術の紹介	周辺技術は、冷却技術、計測回路技術、信号処理、シーディング技術、電流源推定のアルゴリズムなどの項目から一つを選択する。
	13週	計測システムの周辺技術 最近の技術の紹介	
	14週	微小磁界計測実験の説明	生体磁気信号の電流ダイポールによる疑似実験を理解できる。 ビオサバルの法則を用いて理論値を計算できる。
	15週	微小磁界計測実験	S/N比の劣悪な環境でのSQUID磁束計による疑似生体信号計測の実験を通して計測データと雑音の理解とS/N比改善を検討できる。
	16週	前期中間試験:実施する	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	試験	発表	ポートフォリオ	態度	ポートフォリオ その他
					合計

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	アルゴリズム特論
科目基礎情報					
科目番号	0025		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: アルゴリズムサイエンス 浅野 共立出版, 参考書: アルゴリズムとデータ構造 平田 森北出版, 参考書: アルゴリズムの基礎 岩野 朝倉出版 自学自習用問題集: アルゴリズムサイエンス 浅野 共立出版				
担当教員	本間 宏利				
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的なアルゴリズムや再帰アルゴリズムの計算量解析ができる。</li> <li>離散最適化問題のクラスについて説明できる。</li> <li>並列分散アルゴリズムのPRAMモデルについてアルゴリズムの理解と実装ができる。</li> </ul>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	基本的なアルゴリズムや再帰アルゴリズムの動作や計算量解析の説明ができる。	基本的なアルゴリズムや再帰アルゴリズムの動作を説明できる。	基本的なアルゴリズムの動作を説明できない。		
	離散最適化問題のクラスの差異や問題の帰着の原理について説明できる。	離散最適化問題のクラスの差異について説明できる。	離散最適化問題のクラスの差異について説明できない。		
	並列分散アルゴリズムのPRAMモデルについてアルゴリズムの理解と実装ができる。	並列分散アルゴリズムのPRAMモデルについてアルゴリズムの説明ができる。	並列分散アルゴリズムのPRAMモデルについて説明ができない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 D JABEE d-1					
教育方法等					
概要	多様化, 複雑化する問題に対して, 効率的な計算手法である様々なアルゴリズムが考案されている。 本科目の目標を以下に示す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的なアルゴリズムや再帰アルゴリズムの計算量解析ができる。</li> <li>各種グラフアルゴリズムや問題のクラスについて説明できる。</li> <li>スケジューリングアルゴリズム, 最適化アルゴリズム, 意思決定アルゴリズムなどの発展型アルゴリズムを用いた離散最適化問題を解くことができる。</li> </ul>				
授業の進め方・方法	<p>プレゼンスライドと黒板板書の両方を使った講義形式でおこなう。 小セクションごとに演習問題を与える。 定期試験直前には総合的な演習を行う。 暗記ではなく論理の積み重ねで問題を考える習慣をつける。</p> <p>成績評価方法: 定期試験の成績で行う。 可否判定: 最終評価 (または再試験の素点) <math>\geq 60\%</math>を合格とする。</p>				
注意点	基本的な離散数学の知識が必要である。 手続き型プログラミング言語の知識があること。 講義は基本的にプロジェクトを利用して行う。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	計算理論 1	アルゴリズム・手続きの概念を説明できる。	
		2週	計算理論 2	O記号の意味と, 多項式時間, 指数式時間の差異を説明できる。	
		3週	計算理論 3	様々なアルゴリズムの計算量解析を行える。	
		4週	グラフアルゴリズム 1	グラフの概念, 問題のモデル化を説明できる。	
		5週	グラフアルゴリズム 2	最短経路問題, 最小全域木問題の解法を説明できる。	
		6週	グラフアルゴリズム 3	最大流量問題, 巡回セールスマン問題の解法を説明できる。	
		7週	問題のクラス 1	可解, 非可解, クラスP, クラスNPについて説明できる。	
	8週	問題のクラス 2	NP完全問題の種類, 問題の多項式帰着について説明できる。		
	4thQ	9週	遺伝的アルゴリズム 1	遺伝的アルゴリズムによる問題解法を説明できる。	
		10週	遺伝的アルゴリズム 2	初期解や交差手法を選定し遺伝的アルゴリズムのコーディングを行うことができる。	
		11週	並列分散アルゴリズム 1	並列計算機モデルの種類や特徴について説明できる。	
		12週	並列分散アルゴリズム 2	PRAMのメモリアクセス手法について説明できる。	
		13週	並列分散アルゴリズム 3	PRAMアルゴリズムの性能評価方法について説明できる。	
14週		並列分散アルゴリズム 4	基本的なCREW PRAMアルゴリズムについて説明できる。		

		15週	並列分散アルゴリズム 5	基本的なEREW PRAMアルゴリズムについて説明できる			
		16週	期末試験	この講義の理解度・目標達成度を確認するため、試験を実施する。			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	100	専門的能力	100	0	100

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	インターンシップⅡ	
科目基礎情報						
科目番号	0026		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実習		単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	学内制作/専攻科生対象「インターンシップ指導書」, および受け入れ先で配布される資料. <a href="https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/AttainmentLevelEntry.aspx?department_id=21&amp;subject_id=0033&amp;year=2014">https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/AttainmentLevelEntry.aspx?department_id=21&amp;subject_id=0033&amp;year=2014</a>					
担当教員	佐川 正人,高橋 剛					
到達目標						
就業体験を通じ, 技術者としての素養を磨く(与えられた課題の解決を期間内に計画的に進めることができる. グループ作業において自分の役割を積極的に果たすことができる.) 実社会における技術への要請, 必要性を認識する(社会が要求する科学技術を認識できる. 科学技術が社会に及ぼす影響を認識できる.)						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	与えられた課題の解決を期間内に計画的に進めることができる。	与えられた課題の解決を期間内に積極的な指導を受けると計画的に進めることができる。	与えられた課題の解決を期間内に積極的な指導を受けても計画的に進めることができない。			
評価項目2	グループ作業において自分の役割を積極的に果たすことができる。	グループ作業において自分の役割を限定的に果たすことができる。	グループ作業において自分の役割を限定的にでさ果たすことができない。			
評価項目3	社会が要求する科学技術を認識できる。	社会が要求する科学技術を丁寧な解説付きで認識できる。	社会が要求する科学技術を丁寧な解説付きでも認識できない。			
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 B 学習・教育到達度目標 D 学習・教育到達度目標 E 学習・教育到達度目標 F JABEE a JABEE b JABEE d-4 JABEE e JABEE f JABEE h						
教育方法等						
概要	企業, 官庁, 国公立大学および試験研究機関において, 現場指導者の監督のもとに実務に参加し, 実践的技術者となるための素養を磨く. また, 技術に対する社会の要請, 研究・設計・生産・試験・保守などの活動における知識や技術の必要性を認識し, これらの活動を公衆の健康・安全, 文化, 経済, 環境, 倫理の観点で考察すると共に自分の進路を考察する機会を持つこと.					
授業の進め方・方法	インターンシップⅡは選択で勤務時間33.75時間以上必要. 尚, 受け入れ企業等の事情により勤務時間に達しなかった場合は, 代替手段で不足時間を補填することになる. 単位取得要件: ①インターンシップ前の事前説明会(4月)と事前講習会(7月)の出席, ②終了後, インターンシップ報告会での発表. 成績評価方法: 企業からの評定書の評価50%, 報告会における複数教員の評価50%として, 100点満点で評価し, 60点以上を合格とする. 社会人経験者の場合, 条件を満たせばインターンシップは免除されるが, その場合でも就業内容をまとめ, 報告会にて同様に発表しなければならない.					
注意点	インターンシップ先を自己開拓した場合, 学校がインターンシップ先として適切か否か判断し, 妥当となれば学校からインターンシップ先に連絡し, 連携を図ることになります. インターンシップを通して, 自分の適性を一層理解し, 自分の将来の進路に役立てることが目的です. 報酬や対価の取得を目的としたアルバイトではないことを肝に銘じ真摯に取り組んで下さい. なお, 報告会で使用する写真や資料は, 受け入れ先の許可が必要です.					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1)受け入れ先機関の調査およびマッチング検討 (随時)	1)受け入れ可能な機関を提示し, 希望調査・調整により受け入れ先を決定できる.		
		2週	2)事前説明会 (4月頃, 45分程度)・・・出席必須	2)インターンシップの意義や目的・狙いを理解する. インターンシップに関する諸事情を理解できる.		
		3週	3) 受け入れ先の確保(5~7月頃)(随時)	3)自己開拓も含め受け入れ先を決定し, 申し込みし, 確保できる.		
		4週	4) 事前講習会(7月頃, 45分程度)・・・出席必須	4) ビジスマナー, 企業秘密の遵守, 通勤時および作業時の自己への対応等, 一般的な注意事項を理解できる.		
		5週	5)インターンシップ実施	5)受け入れ先において, 指示を理解し, 適切に対応し, 期限を守って成果を出すことができる.		
		6週	6)インターンシップ報告書の提示	6)適切なインターンシップ報告書を作成し, 提出できる.		
		7週	7)インターンシップ報告会(一般的に10~12月で一回)	7)実習内容, 得られた成果など, インターンシップの経験を報告会において発表できる.		
		8週	定期試験は実施しない			
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				

		3週			
		4週			
		5週			
		6週			
		7週			
		8週			
		4thQ	9週		
			10週		
	11週				
	12週				
	13週				
	14週				
	15週				
	16週				

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	50	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	50	50	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	科学技術表現技法
科目基礎情報					
科目番号	0028		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	No required textbooks. Recommended books: 即戦力がつく英文ライティング, 日向清人, DHC, 2013 / 「使える理系英語の教科書: ライティングからプレゼン, ディスカッションまで」, 森 村久美子, 東京大学出版会, 2012 / 「伝わる英語表現法」, 長部 三郎, 岩波書店, 2001				
担当教員	山田 昌尚				
到達目標					
Successful students will be able to 1) Write a paragraph of approximately 100 words in English, including a summary of a research report. 2) Give a presentation in English on a scientific topic.					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
1)	Can write an English paragraph on a topic with detailed explanation and minor grammatical errors	Can write an English paragraph on a topic with some explanation and grammatical errors	Cannot write an English paragraph on a topic		
2)	Can give a presentation in English on a topic with detailed explanation and minor grammatical errors	Can give a presentation in English on a topic with some explanation and grammatical errors	Cannot give a presentation in English on a topic		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	In this class, students will learn the skills of writing and giving presentations in English. For engineers, the skills to write and speak in English are necessary not only to obtain information but also to appeal their products and achievements. In this course, students will acquire the skills to write short text and give presentations in English through practice.				
授業の進め方・方法	Students are required to submit assignments every week. Participants will discuss their writing assignments and presentations in the class. Grades are given as follows: A) Writing assignment: 20 points; B) Writing examination: 20 points; C) Presentation: 50 points; D) In-class participation and attitude: 10 points; Total point = A+B+C+D. Passing criteria: 60% of the total point Final grade: same as the total points No reexamination for failing students				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>Students must submit weekly assignments by the deadline.</li> <li>The lecturer uses English in the class.</li> <li>Students are encouraged to use English as much as possible. Active participation is regarded as important in the class.</li> </ul>				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	Introduction	To recognize basic grammatical terms in English	
		2週	English writing	To write grammatically correct sentences with proper use of conjunctions	
		3週	English writing	To write sentences which describe the situation in the photo	
		4週	English writing	To write a paragraph expressing your opinion with supportive sentences	
		5週	English writing	To write a narrative paragraph which tells a story or an event	
		6週	English writing	To write a descriptive paragraph which conveys details and features of an object	
		7週	English writing	To write a summary of a research report	
		8週	English presentation	To give a presentation on a familiar topic	
	4thQ	9週	English presentation	To give a presentation on a familiar topic	
		10週	English presentation	To give a presentation on a familiar topic	
		11週	English presentation	To give a presentation on a familiar topic	
		12週	English presentation	To give a presentation on a scientific or technical topic	
		13週	English presentation	To give a presentation on a scientific or technical topic	
		14週	English presentation	To give a presentation on a scientific or technical topic	
		15週	English presentation	To give a presentation on a scientific or technical topic	
		16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	20	50	0	10	0	20	100
基礎的能力	20	50	0	10	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	インターンシップⅢ	
科目基礎情報						
科目番号	0029		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実習		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1		
開設期	集中		週時間数			
教科書/教材	学内制作/専攻科生対象「インターンシップ指導書」, および受け入れ先で配布される資料. <a href="https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/AttainmentLevelEntry.aspx?department_id=21&amp;subject_id=0033&amp;year=2014">https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/AttainmentLevelEntry.aspx?department_id=21&amp;subject_id=0033&amp;year=2014</a>					
担当教員	佐川 正人,高橋 剛					
到達目標						
就業体験を通じ, 技術者としての素養を磨く(与えられた課題の解決を期間内に計画的に進めることができる. グループ作業において自分の役割を積極的に果たすことができる.) 実社会における技術への要請, 必要性を認識する(社会が要求する科学技術を認識できる. 科学技術が社会に及ぼす影響を認識できる.)						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	与えられた課題の解決を期間内に計画的に進めることができる。		与えられた課題の解決を期間内に積極的な指導を受けると計画的に進めることができる。		与えられた課題の解決を期間内に積極的な指導を受けても計画的に進めることができない。	
評価項目2	グループ作業において自分の役割を積極的に果たすことができる。		グループ作業において自分の役割を限定的に果たすことができる。		グループ作業において自分の役割を限定的にでさえ果たすことができない。	
評価項目3	社会が要求する科学技術を認識できる。		社会が要求する科学技術を丁寧な解説付きで認識できる。		社会が要求する科学技術を丁寧な解説付きでも認識できない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	企業, 官庁, 国公立大学および試験研究機関において, 現場指導者の監督のもとに実務に参加し, 実践的技術者となるための素養を磨く. また, 技術に対する社会の要請, 研究・設計・生産・試験・保守などの活動における知識や技術の必要性を認識し, これらの活動を公衆の健康・安全, 文化, 経済, 環境, 倫理の観点で考察すると共に自分の進路を考察する機会を持つこと。					
授業の進め方・方法	インターンシップⅢは選択で勤務時間135時間以上必要. 尚, 受け入れ企業等の事情により勤務時間に達しなかった場合は, 代替手段で不足時間を補填することになる. 単位取得要件: ①インターンシップ前の事前説明会(4月)と事前講習会(7月)の出席, ②終了後, インターンシップ報告会での発表. 成績評価方法: 企業からの評定書の評価50%, 報告会における複数教員の評価50%として, 100点満点で評価し, 60点以上を合格とする. 社会人経験者の場合, 条件を満たせばインターンシップは免除されるが, その場合でも就業内容をまとめ, 報告会にて同様に発表しなければならない。					
注意点	インターンシップ先を自己開拓した場合, 学校がインターンシップ先として適切か否か判断し, 妥当となれば学校からインターンシップ先に連絡し, 連携を図ることになります. インターンシップを通して, 自分の適性を一層理解し, 自分の将来の進路に役立てることが目的です. 報酬や対価の取得を目的としたアルバイトではないことを肝に銘じ真摯に取り組んで下さい. なお, 報告会で使用する写真や資料は, 受け入れ先の許可が必要です.					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1)受け入れ先機関の調査およびマッチング検討 (随時)	1)受け入れ可能な機関を提示し, 希望調査・調整により受け入れ先を決定できる.		
		2週	2)事前説明会 (4月頃, 45分程度)・・・出席必須	2)インターンシップの意義や目的・狙いを理解する. インターンシップに関する諸事情を理解できる.		
		3週	3) 受け入れ先の確保(5~7月頃)(随時)	3)自己開拓も含め受け入れ先を決定し, 申し込みし, 確保できる.		
		4週	4) 事前講習会(7月頃, 45分程度)・・・出席必須	4) ビジネスマナー, 企業秘密の遵守, 通勤時および作業時の自己への対応等, 一般的な注意事項を理解できる.		
		5週	5)インターンシップ実施	5)受け入れ先において, 指示を理解し, 適切に対応し, 期限を守って成果を出すことができる.		
		6週	6)インターンシップ報告書の提示	6)適切なインターンシップ報告書を作成し, 提出できる.		
		7週	7)インターンシップ報告会(一般的に10~12月で一回)	7)実習内容, 得られた成果など, インターンシップの経験を報告会において発表できる.		
		8週	定期試験は実施しない			
	2ndQ	9週				
		10週				
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週				
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				

		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
	16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	50	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	50	50	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	量子力学概論	
科目基礎情報							
科目番号	0030		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	: 2			
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1			
開設期	前期		週時間数	4			
教科書/教材	物理学スーパーラーニングシリーズ 量子力学 著者: 佐川弘幸、清水克多郎 発行所: シュプリンガー・フェアラーク 東京株式会社						
担当教員	伊藤 光樹						
到達目標							
量子力学の原理を理解し、様々な計算を行えるようになることを到達目標とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	量子力学における原理を理解し、計算を行える。		量子力学における原理を概ね理解し、計算を行える。		量子力学における原理の理解、および計算ができない。		
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	量子現象を理解する上での基礎となる、原子や電子の振舞いについて学ぶ。そのうえで、現代のダイオードやトランジスタといった半導体素子の動作原理の根幹をなす量子現象について学習する。						
授業の進め方・方法	合否判定: 2回の定期試験の結果の平均が60点を超えていること。 最終評価: 2回の定期試験の結果の平均(100%)と授業態度(±10%)の合計 再試験: 再試験成績が60点以上を合格とする。 量子力学を理解するためには、物理の理解が大切である。 これまで本科で履修した力学・電気磁気学・波動現象および微積分に関する講義をしっかりと理解・復習し、量子力学の理解に役立ててください。						
注意点	特に無し。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	量子力学のおこり1		エネルギー-量子やボーアの原子模型について理解し、説明できる。		
		2週	量子力学のおこり2		エネルギー-量子やボーアの原子模型について理解し、説明できる。		
		3週	光の粒子性と波動性1		ヤングの干渉実験や光電効果について理解し、コンプトン効果を説明できる。		
		4週	光の粒子性と波動性2		ヤングの干渉実験や光電効果について理解し、コンプトン効果を説明できる。		
		5週	光の粒子性と波動性3		ヤングの干渉実験や光電効果について理解し、コンプトン効果を説明できる。		
		6週	物質の波動性1		ド・ブロイ波について理解し、物質が波動性を示す条件を説明できる。		
		7週	物質の波動性2		ド・ブロイ波について理解し、物質が波動性を示す条件を説明できる。		
		8週	前期中間試験				
	2ndQ	9週	不確定性原理1		ハイゼンベルクの思考実験について理解し、不確定性原理を説明できる。		
		10週	不確定性原理2		ハイゼンベルクの思考実験について理解し、不確定性原理を説明できる。		
		11週	シュレディンガー方程式1		定常状態のシュレディンガー方程式を説明できる。		
		12週	シュレディンガー方程式2		定常状態のシュレディンガー方程式を説明できる。		
		13週	井戸型ポテンシャルと量子力学の基礎概念1		井戸型ポテンシャルについて理解し、期待値等の物理量を計算できる。		
		14週	井戸型ポテンシャルと量子力学の基礎概念2		井戸型ポテンシャルについて理解し、期待値等の物理量を計算できる。		
		15週	井戸型ポテンシャルと量子力学の基礎概念3		井戸型ポテンシャルについて理解し、期待値等の物理量を計算できる。		
		16週	前期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0
---------	---	---	---	---	---	---	---

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	数値計算特論
科目基礎情報					
科目番号	0031		科目区分	専門 /	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学習単位: 2	
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専1	
開設期	後期		週時間数	0	
教科書/教材	テキスト:自作のテキスト 参考書: ①だれでもわかるMATLAB—即戦力ツールブック, 池原・他2名, 培風館, ②MATLAB/C++で学ぶ物理学のための数値法(上)・(下), A.ガルシア著, ビアソン・エデュケーション, ③MATLABとOctaveによる科学技術計算, A.クアルテローニ, F.ザレリ, P.ジェルヴァシオ著, 丸善出版				
担当教員	赤堀 匡俊				
到達目標					
到達目標1: 定数, 変数, 配列, 入出力, 繰り返し処理, 条件分岐, 関数についてのプログラムが作成できる。 到達目標2: 常微分方程式の各種数値解析法(オイラー法, 中点法, ルンゲ・クッタ法, 等)のプログラムを作成し, 常微分方程式の数値解析を行うことができる。 到達目標3: 偏微分方程式の各種数値解析法(陽解法, 陰解法, クランク・ニコルソン法, 等)のプログラムを作成し, 偏微分方程式の数値解析を行うことができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	定数, 変数, 配列, 入出力, 繰り返し処理, 条件分岐, 関数について正しいプログラムが作成できる。	定数, 変数, 配列, 入出力, 繰り返し処理, 条件分岐, 関数についての正しいプログラムが理解できる。	定数, 変数, 配列, 入出力, 繰り返し処理, 条件分岐, 関数についての正しいプログラムを理解できない。		
評価項目2	常微分方程式の数値解析法を的確に説明でき, 正しいプログラムが作成できる。	常微分方程式の数値解析法を理解し, 正しいプログラムが理解できる。	常微分方程式の数値解析法を理解できず, 正しいプログラムも理解できない。		
評価項目3	偏微分方程式の数値解析法を的確に説明でき, 正しいプログラムが作成できる。	偏微分方程式の数値解析法を理解し, 正しいプログラムが理解できる。	偏微分方程式の数値解析法を理解できず, 正しいプログラムも理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	工学のあらゆる分野では, コンピュータを用いた「数値シミュレーション」がますます活発に使われるようになってきている。「数値シミュレーション」とは, 自然現象や人工物の振る舞いを微分方程式でモデル化し, 適切な数値解析法を適用したうえで, コンピュータを用いて微分方程式を解く営みを指す。数値解析特論では, 研究機関で先端実験装置の熱流体設計を行った実務経験を持つ教員が, 数値シミュレーション, 可視化, プログラミングが簡単に行えるプログラム言語MATLABを用いて, 微分方程式の数値シミュレーション手法の基礎を学び, さまざまな工学問題の解決を図る能力を育成する。				
授業の進め方・方法	合否判定は, 授業毎に課す確認レポートの平均点(20%)と単元毎に課す演習レポートの平均点(80%)の合計が60点を超えていることで合格とする。理由なく授業に欠席・遅刻した場合はレポート点を減点する。 成績評価: 確認レポート(20%) + 演習レポート(80%) 演習レポート評価基準: 課題の正しい解答 成績評価が60点に至らない場合には, 確認レポートがすべて提出されていることを条件に, 再レポートを実施し60点以上を合格とする。このときの最終評価は60点とする。 前関連科目: 本科で勉強する数学科目。特に微積分, 線形代数, 常微分方程式, 偏微分方程式, ベクトル解析。				
注意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・微積分, 線形代数, 常微分方程式(ただし解析的に解けるものに限る), ベクトル解析を理解していることを前提に, 演習主体の講義構成とする。</li> <li>・自作テキストを基に講義を行う。</li> <li>・プログラミング演習室の各PCにMATLABがインストールされているので, 予習, 復習, レポートの実施では適宜プログラミング演習室を使うこと。</li> <li>・MATLABは有償ソフトウェアであり, 高専のネットワーク外では使用できない。自宅等で予習, 復習, レポートを行う場合は, MATLABのフリーウェア版とも言えるOctaveやScilab(ともに文法はほとんどMATLABと同じ)をダウンロード・インストールして使用できる。</li> <li>・プログラミングの得意不得意によって演習の進度に個人差が生じる場合がありますが, 配布教材にじっくり取り組み成果を身をもって実感できます。そのため, 特にプログラミングが不得手と感じている学生ほど欠席しないこと。</li> <li>・本科目は学修単位科目であるため, 授業時間相当の自主学習(授業の予習・復習を含む)を行う必要がある。</li> <li>・講義の理解度を深めるため, 毎回(8週と15週を除く), 演習課題レポートを課す。</li> </ul>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	・ガイダンス ・数値計算法の概要	・授業目的と方針を理解する。 ・数値計算の概要, 目的, 意義が理解できる	
		2週	MATLABの使用方法(1) MATLABの起動と終了, 変数や配列, 行列, 四則演算など	MATLABの基本的な用法が理解できる	
		3週	MATLABの使用方法(2) 行列計算, グラフ描画など	MATLABの基本的な用法が理解できる	
		4週	MATLABの使用方法(3) 関数Mファイル, if文, for文, while文など	MATLABの基本的な用法が理解できる	
		5週	常微分方程式の解法(1) オイラー法, 中点法	オイラー法, 中点法を用いた1階常微分方程式の数値解法を理解し, MATLABによる数値シミュレーションができる。	
		6週	常微分方程式の解法(2) ルンゲ・クッタ法	ルンゲ・クッタ法を用いた1階常微分方程式の数値解法を理解し, MATLABによる数値シミュレーションができる。	

4thQ	7週	連立常微分方程式の解法	オイラー法、中点法、ルンゲ・クッタ法を用いた連立1階常微分方程式の数値解法を理解し、MATLABによる数値シミュレーションができる。
	8週	総合レポート課題（1）	物理現象や人工物を常微分方程式を用いてモデル化し、それに適切な数値解法を適用して、MATLABシミュレーションを行い、レポートとしてまとめることができる。
	9週	偏微分方程式の解法（1） ・有限差分法の基礎	・偏導関数の差分近似を理解する。
	10週	偏微分方程式の解法（2） ・楕円型偏微分方程式の解法	・偏導関数の差分近似を用いた1次元および2次元楕円型偏微分方程式の数値解法を理解し、MATLABによる数値シミュレーションができる。
	11週	偏微分方程式の解法（3） ・放物型偏微分方程式の陽解法	・1次元放物型偏微分方程式の陽解法を理解し、MATLABによる数値シミュレーションができる。
	12週	偏微分方程式の解法（4） ・放物型偏微分方程式の陰解法	・1次元放物型偏微分方程式の陰解法（クランク・ニコルソン法を含む）を理解し、MATLABによる数値シミュレーションができる。
	13週	偏微分方程式の解法（5） ・双曲型偏微分方程式の陽解法	・1次元双曲型偏微分方程式の陽解法を理解し、MATLABによる数値シミュレーションができる。
	14週	偏微分方程式の解法（6） ・双曲型偏微分方程式の陰解法	・1次元双曲型偏微分方程式の陰解法を理解し、MATLABによる数値シミュレーションができる。
	15週	総合レポート課題（2）	物理現象や人工物を偏微分方程式を用いてモデル化し、それに適切な数値解法を適用して、MATLABシミュレーションを行い、レポートとしてまとめることができる。
16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	100	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	物理学特論
科目基礎情報					
科目番号	0032	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電子情報システム工学専攻	対象学年	専2		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	教科書: 自作テキスト、参考書: 振動・波動 (近柱一郎著、裳華房), 振動と波動 (藤原邦男、サイエンス社)、ゼロから学ぶ振動と波動 (小暮陽三、講談社), 振動・波動 (長谷川修司 講談社基礎物理学シリーズ)				
担当教員	梅津 裕志				
到達目標					
基礎となる物理法則から単振動、多自由度系の連成振動の運動方程式を導出し、それを用いて振動現象を理解できる。連続体を伝わる波を記述する波動方程式とその解の基本的な性質を理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 基礎となる物理法則から単振動、多自由度系の連成振動の運動方程式を導出し、それを用いて振動現象を理解できる。	単振動、減衰振動、強制振動について運動方程式を解き、現象の特徴を説明できる。多自由度系の連成振動を運動方程式をもとに解析し、基本振動を導出できる。無限自由度の極限として、連成振動から波動方程式を導出できる。	単振動、減衰振動、強制振動について運動方程式を立て、解くことができる。多自由度系の連成振動を運動方程式をもとに解析し、基本振動を導出できる。	単振動、減衰振動、強制振動について運動方程式を立て、解くことができない。多自由度系の連成振動の運動方程式を立式できない。		
評価項目2 連続体を伝わる波を記述する波動方程式とその解の基本的な性質を理解できる。	基本法則から波動方程式を導出し、波動方程式の解を用いて波の性質を説明できる。各境界条件に対応した1次元の固有振動数を算出できる。3次元の波動方程式から平面波、球面波を導出できる。波源のある場合の波動方程式を解析できる。	基本法則から波動方程式を導出し、波動方程式の解を用いて波の性質を説明できる。各境界条件に対応した1次元の固有振動数を算出できる。3次元の波動方程式から平面波、球面波を導出できる。	基本法則から波動方程式を導出し、波動方程式の解を用いて波の性質を説明できない。各境界条件に対応した1次元の固有振動数を算出できない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 C JABEE C					
教育方法等					
概要	単振動から始めて多自由度系の連成振動について理解する。自由度が無限大の系の運動として連続体の振動現象を記述する波動方程式を導出する。波動方程式の解法と波の基本的な性質について理解する。				
授業の進め方・方法	ベクトル、行列、微積分などの数学の基礎知識が必要である。数学の知識については必要に応じて授業で解説するが、基本的な事柄は数学・応用数学の教科書等で復習しておくことが望ましい。授業ではできるだけ導出過程の詳細を省かずに解説するので、物理の基本法則から実際の振動・波動現象に結びつける過程を、自分の手を動かすことによって理解することが重要である。 合否判定: 2回の定期試験の平均点で評価し、評点が60点以上であること。再試験は60点以上で合格とする。 最終評価: 2回の定期試験の平均点で評価。ただし、再試験で合格した者の最終評価は60点とする。				
注意点	振動・波動は自然科学、工学において一般的に現れる現象である。各自の専門分野との関わりを意識して授業に参加して欲しい。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	単振動と振動の基礎	単振動の運動方程式を立て、解くことが出来る。	
		2週	減衰振動	減衰振動を運動方程式を用いて理解できる。	
		3週	強制振動	強制振動を運動方程式を用いて理解できる。	
		4週	2自由度系の連成振動	2自由度系の基準振動、基準振動数を求めることが出来る。	
		5週	2自由度系の連成振動	2自由度系の基準振動、基準振動数を求めることが出来る。	
		6週	多自由度系の連成振動	多自由度系の基準振動、基準振動数を求めることが出来る。	
		7週	多自由度系の連成振動	多自由度系の基準振動、基準振動数を求めることが出来る。	
		8週	後期中間試験 : 実施する。		
	4thQ	9週	連続体の振動	無限自由度系の運動として連続体の振動を理解できる。	
		10週	連続体の振動	弾性体や弦の振動を記述する運動方程式を導出できる。	
		11週	連続体の振動	境界条件に応じた固有振動数を導出できる。	
		12週	波動の基本的性質	波の波長、速度などの基本的物理量を計算できる。	
		13週	波動の基本的性質	波動方程式の解として進行波、定在波を理解できる。	
		14週	様々な波動現象	音波、電磁波などを記述する波動方程式を物理の基本法則から導出し、それらの波の性質を説明できる。	
		15週	様々な波動現象	物理的状況に対応した境界条件の下で、波動方程式の解を導出できる。	
		16週	後期期末試験 : 実施する。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	日本語表現技法
科目基礎情報					
科目番号	0043		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	配布資料、参考図書『「ロンリ」の授業』（NHK「ロンリのちから」制作班著・野矢茂樹監修、三笠書房）、『論証のルールブック』（アンソニー・ウェストン著・古草秀子訳、ちくま学芸文庫）、『科学を伝え、社会とつなぐ サイエンスコミュニケーションのはじめかた』（国立科学博物館編、丸善出版）、『全米最高視聴率男の「最強の伝え方」』（アラン・アルダ著・高橋洋訳、青土社）				
担当教員	小田島 本有				
到達目標					
研究活動の充実を図るうえで必要な日本語の運用能力、伝えるための技術、特に論理的思考に基づく効果的な口頭発表の技法を身につけ、実践することを目標とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1 聴衆の理解と共感を得られる発表内容の実践	聴衆に新たな知見を得ることの喜びを提供する、論理的かつ効果的な口頭発表ができる。	聴衆が理解可能な口頭発表ができる。	聴衆にとっては理解不能な口頭発表しかできない。		
評価項目2 内容の伝達を助ける技法の工夫	聴衆の理解を助けるための適切な技法の実践が至るところに確かめられ、効果をもたらしている。	口頭発表における技法的工夫を意識した実践であることが分かる。	対他意識が欠如した、自己本位の表現に終始している。		
評価項目3 聴衆の疑問に対する適切な応答	疑問の背景を察知し、理解を深める新たな情報を付加した応答ができる。	疑問の中心を理解し、それに向けた応答ができる。	疑問の内容を理解できず応答できないか、故意にはぐらかした応答しかできない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	口頭発表の実践と相互批評をとおして、聴衆にとってわかりやすく有意義な発表の構成・展開方法と言語的・非言語的技法を身につける。				
授業の進め方・方法	設定された制限時間のなかで実践できる最も効果的な口頭発表とは、どのような内容と技法に支えられるのかを追究する。口頭発表の回数は2回を予定している。相互に批評し合い、技法を向上させる。最終週にレポートの提出を求める。自学自習の中心は、口頭発表のための調査や準備となるが、参考図書や他の文献を読み、表現全般について見識を深めることを期待する。成績は、レポート形式の試験(40%)、口頭発表(50%)、ポートフォリオ(10%)・ルーブリック評価による批評シート)により評価する。試験の素点が60点未満の場合は、再試験を1回のみ実施する。				
注意点	発表者は聴衆を説得するだけの論理性に支えられた内容を準備するとともに、伝えようとする意欲を表現する必要がある。また、本授業は、聴き手としての言語能力が試される場でもある。質疑応答や相互批評では、積極的に誠実な発言が求められる。				
授業の属性・履修上の区分					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1週	ガイダンス 口頭発表について	授業の到達目標、内容、評価方法が理解できる。 口頭発表の目的、効果について理解できる。		
	2週	コミュニケーションの要諦 (1)	相手に何かを伝えることの難しさを知った上で、より伝わりやすいコミュニケーションの方法が理解できる。		
	3週	コミュニケーションの要諦 (2)	相手に何かを伝えることの難しさを知った上で、より伝わりやすいコミュニケーションの方法が理解できる。		
	4週	コミュニケーションの要諦 (3)	相手に何かを伝えることの難しさを知った上で、より伝わりやすいコミュニケーションの方法が理解できる。		
	5週	コミュニケーションの要諦 (4)	相手に何かを伝えることの難しさを知った上で、より伝わりやすいコミュニケーションの方法が理解できる。		
	6週	口頭発表 (1)	聴衆の理解と共感が得られる論理的な口頭発表ができる。		
	7週	口頭発表 (2)	聴衆の理解と共感が得られる論理的な口頭発表ができる。		
	8週	口頭発表 (3)	聴衆の理解と共感が得られる論理的な口頭発表ができる。		
	9週	口頭発表 (4)	聴衆の理解と共感が得られる論理的な口頭発表ができる。		
	10週	口頭発表 (5)	聴衆の理解と共感が得られる論理的な口頭発表ができる。		
	11週	口頭発表 (6)	聴衆の理解と共感が得られる論理的な口頭発表ができる。		
	12週	口頭発表 (7)	聴衆の理解と共感が得られる論理的な口頭発表ができる。		
	13週	口頭発表 (8)	聴衆の理解と共感が得られる論理的な口頭発表ができる。		
	14週	口頭発表 (9)	聴衆の理解と共感が得られる論理的な口頭発表ができる。		

		15週	実践を振り返って	自他の実践を客観的に分析することができる。
		16週	試験	口頭発表の経験を生かし、論題に即して論理的な主張ができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	50	0	0	10	0	100
基礎的能力	40	50	0	0	10	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	人工知能特論		
科目基礎情報							
科目番号	0030		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	教科書: なし(必要資料は配布) 参考書: 高玉圭樹, マルチエージェント学習—相互作用の謎に迫る—. コロナ社, 2003. 参考書: R. S. Sutton and A. G. Barto, 三上貞芳, 皆川雅章訳, 強化学習. 森北出版, 2000. 参考書: 伊藤一之, ロボットインテリジェンス—進化計算と強化学習—. オーム社, 2007. 参考書: 谷口忠大, イラストで学ぶ人工知能概論. 講談社, 2014.						
担当教員	天元 宏						
到達目標							
強化学習の原理を理解し、学習アルゴリズムを作成できることを到達目標とする。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
JABEE d-1							
教育方法等							
概要	この科目では、計算機の知能化を目指す専門的な構成技術の一つとして強化学習について授業を行う。強化学習は、状態、行動と報酬という簡潔なアルゴリズムにより構成されながら、環境との相互作用により、未知な環境においても最適な行動を学習できる特徴から、自律エージェントの意思決定システムとして適している。この授業では、強化学習の基本的なアルゴリズムの理解と応用できることを期待する。						
授業の進め方・方法	本授業は確率統計とコンピュータプログラミングを基礎知識とする。理解を深めるため、合計約15回のプログラミング課題および演習問題を与えられる。試験1回による評価を7割、レポートによる評価を3割として合否判定点を算出し、60点合否判定を行う。合否判定点で不合格となった場合は、試験前日までに全レポートを提出していたことを受験条件とした上で、合格点60点で再試験を行う。レポート評価は個別のレポート課題にて指示された項目を全て満たしていれば100点とするが、不十分な項目がある場合1項目につき-10点とする。						
注意点	1) 課題は必ず理解し、日限までに提出すること。2) 勉強をしても不明な点は教員室まで聞きに来ること。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応			
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業							
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ガイダンス、シラバス、強化学習の基礎と構成要素	強化学習の基礎と構成要素を理解できる。			
		2週	目標、報酬、収益、価値関数の定義	目標、報酬、収益、価値関数の定義を理解できる。			
		3週	目標、報酬、収益、価値関数の定義	目標、報酬、収益、価値関数の定義を理解できる。			
		4週	マルコフ決定過程	マルコフ決定過程を理解できる。			
		5週	マルコフ決定過程	マルコフ決定過程を理解できる。			
		6週	強化学習の実装	強化学習アルゴリズムをC言語で実装できる。			
		7週	強化学習の実装	強化学習アルゴリズムをC言語で実装できる。			
		8週	強化学習の実装	強化学習アルゴリズムをC言語で実装できる。			
	2ndQ	9週	モンテカルロ法	モンテカルロ法を理解し、アルゴリズムを書ける。			
		10週	モンテカルロ法	モンテカルロ法を理解し、アルゴリズムを書ける。			
		11週	TD法	TD法を理解し、アルゴリズムを書ける。			
		12週	TD法	TD法を理解し、アルゴリズムを書ける。			
		13週	Q学習アルゴリズム	Q学習を理解し、アルゴリズムを書ける。			
		14週	Q学習アルゴリズム	Q学習を理解し、アルゴリズムを書ける。			
		15週	Q学習アルゴリズム	Q学習を理解し、アルゴリズムを書ける。			
		16週	後期末試験:実施する				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	ソフトウェア工学特論		
科目基礎情報							
科目番号	0033		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	テキスト: 必要な資料を配付する。参考書: 福田敏男著「インテリジェントシステム」(昭晃堂) 講座ファジィ1 巻~14 巻日本ファジィ学会編日刊工業新聞社						
担当教員	高木 敏幸						
到達目標							
一般的な集合とファジィ集合の違いを理解し、ファジィ理論における演算方法を記述できる。 ファジィ推論を用いた制御方法を設計できる。 ニューラルネットワークをコンピュータ上にモデル化する方法について説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	一般的な集合とファジィ集合の違いを理解し、ファジィ理論における演算方法を記述できる。		一般的な集合とファジィ集合の違いを理解し、ファジィ理論における演算方法を記述できる。		一般的な集合とファジィ集合の違いを理解し、ファジィ理論における演算方法を記述できない。		
評価項目2	ファジィ推論を用いた制御方法を設計できる。		ファジィ推論を用いた制御方法を設計できる。		ファジィ推論を用いた制御方法を設計できない。		
評価項目3	ニューラルネットワークをコンピュータ上にモデル化する方法について説明できる。		ニューラルネットワークをコンピュータ上にモデル化する方法について説明できる。		ニューラルネットワークをコンピュータ上にモデル化する方法について説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 C 学習・教育到達度目標 D JABEE d-1							
教育方法等							
概要	ソフトウェア工学とは、従来の計算手法では扱いが難しい不正確・不確実な要素を許容して、問題を解決するための計算手法を包括した研究分野です。ソフトウェア工学技術を用いることで、あいまいな情報や不完全な情報、また、状況によって変化する情報を、柔軟に処理することができます。この授業では、ソフトウェア工学の代表的な計算手法である、ファジィ理論、ニューラルネットワークの基礎と計算機上での実装について学び、また、これらの手法がどのように応用されるのかを学びます。						
授業の進め方・方法	講義形式で行う。本科目では、ファジィ理論、ニューラルネットワーク、ソフトウェア工学技術を中心に講義と演習を行い、これらの基本的な考え方について理解する。						
注意点	事前に配布した資料を持参すること。 専攻科1年後期の「多変量解析」の履修が望ましい。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	ファジィ集合とクリスプ集合	ファジィ集合とクリスプ集合の違いを説明できる。			
		2週	ファジィ集合の演算	2. ファジィ理論の概要を説明できる。ファジィ集合の演算ができる			
		3週	プロダクションルールとプロダクションシステム	プロダクションルールとプロダクションシステムを説明できる。			
		4週	ファジィ関係	ファジィ関係について説明できる。			
		5週	ファジィ合成	ファジィ合成について説明できる。			
		6週	Mamdaniによるファジィ推論	Mamdaniによるファジィ推論を説明できる。			
		7週	ファジィ制御	ファジィ制御について説明できる。			
		8週	後期中間試験:実施する				
	2ndQ	9週	簡略型ファジィ推論	簡略型ファジィ推論を説明できる。			
		10週	学習型ファジィ推論	学習型ファジィ推論を説明できる			
		11週	ニューラルネットワークの概要	ニューラルネットワークの概要を説明できる。			
		12週	誤差逆伝播法	誤差逆伝播法を説明できる。			
		13週	自己組織化マップ	自己組織化マップを説明できる。			
		14週	深層学習	深層学習を説明できる。			
		15週	総まとめ				
		16週	後期末試験:実施する				
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	30	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	信号画像処理 I		
科目基礎情報							
科目番号	0034		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	テキスト: 「原理がわかる信号処理」(長谷山美紀、共立出版) 参考書: 「よくわかる信号処理」(オーム社) 「信号解析のための数学」(森北出版) 「ユーザーステジアル信号処理」(東京電機大学出版)						
担当教員	浅水 仁						
到達目標							
アナログとデジタルの相違について十分に理解できること、フーリエ変換を活用できること、システムのインパルス応答と入力信号、その出力信号との関係がたまたみ込み演算で与えられることを説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	連続信号と離散信号について計算ができる。		連続信号と離散信号について簡単な計算ができる。		連続信号と離散信号について簡単な計算できない。		
評価項目2	連続時間システムと離散時間システムについて周波数解析が理解でき計算できる。		連続時間システムと離散時間システムについて周波数解析が理解でき、簡単な計算できる。		連続時間システムと離散時間システムについて周波数解析が理解できず、計算できない。		
評価項目3	デジタルフィルタについて理解し計算ができる。		デジタルフィルタについて簡単な計算ができる。		デジタルフィルタについて理解できず、計算できない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 C JABEE d-1							
教育方法等							
概要	信号処理は工学のあらゆる分野において重要である。特にデジタル信号を扱うことは技術者にとって必須事項である。本講義では、デジタル信号処理をメインテーマとして、信号処理を行う際に必要な知識と技術を身に付けることを目的とする。この科目は企業で情報通信を担当していた教員が、その経験を活かし、実務に応用可能な演習を実施する授業を行うものである。						
授業の進め方・方法	教科書を用いて、講義を行う。演習にて講義内容を確認する。レポートの提出を義務とする。						
注意点	信号処理を行う上で、数学、情報技術の基礎知識は必須である。特に、微分、積分、三角関数、級数の計算ができることを前提とする。アナログ信号とデジタル信号の違い、デジタル信号を扱う際の注意事項などについては、本講義で復習するが、既に学んでいることを前提とする。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	アナログ信号とデジタル信号		アナログ信号からデジタル信号を求めることができる。		
		2週	アナログ信号とデジタル信号		アナログ信号からデジタル信号を求めることができる。		
		3週	信号と周波数 —フーリエ変換—		アナログ信号のフーリエ変換ができる。		
		4週	信号と周波数 —フーリエ変換—		アナログ信号のフーリエ変換ができる。		
		5週	信号と周波数 —フーリエ変換—		アナログ信号のフーリエ変換ができる。		
		6週	離散時間信号のフーリエ変換		離散時間信号のフーリエ変換ができる。		
		7週	離散時間信号のフーリエ変換		離散時間信号のフーリエ変換ができる。		
		8週	中間試験		中間試験		
	2ndQ	9週	離散時間信号のフーリエ変換		離散時間信号のフーリエ変換ができる。		
		10週	離散時間信号のフーリエ変換		離散時間信号のフーリエ変換ができる。		
		11週	離散時間信号のフーリエ変換		離散時間信号のフーリエ変換ができる。		
		12週	z変換		離散時間信号の z 変換ができる。		
		13週	z変換		離散時間信号の z 変換ができる。		
		14週	離散時間システム		システムのインパルス応答と入力信号、その出力信号との関係がたまたみ込み演算で与えられることを説明できる。		
		15週	離散時間システム		システムのインパルス応答と入力信号、その出力信号との関係がたまたみ込み演算で与えられることを説明できる。		
		16週	期末試験		期末試験		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	電子情報システム工学特別ゼミナールⅡ	
科目基礎情報							
科目番号	0035		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	学修単位: 1			
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	前期:2			
教科書/教材	各指導教員の指示による。						
担当教員	高 義礼						
到達目標							
適切な方法により効率的な論文検索ができる。適切な方法により効率的な情報収集ができる。調査結果を適切に発表できる。地域の産業や社会の抱える課題それに対処するための必要な能力の理解ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1							
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B 学習・教育到達度目標 D 学習・教育到達度目標 G JABEE a JABEE b JABEE d-4 JABEE e JABEE g JABEE h							
教育方法等							
概要	特別研究に関連した文献調査、プレゼンテーション技術を修得し、地域の産業や社会の抱える課題やそれに対処するための必要な能力を修得することを目的とする。文献調査に関しては、各自、与えられたテーマに従って調査し、その内容を発表することにより、特別研究のための調査技術、プレゼンテーション技術の修得を目指す。						
授業の進め方・方法	電子ジャーナルによる論文調査、ネットを利用した情報収集、図書館の利用、様々な手法によって必要な情報を収集・分析し、さらにそれらをまとめて発表する。また、発表後の質疑応答に参加する。さらに、周辺・境界領域の知識や地域の産業や社会の抱える課題とそれに対処する能力を修得する。これらの作業は特別研究における自分の研究作業のための訓練として重要である。成績評価方法：文献調査プレゼンテーション（複数教員）（100%）						
注意点	特別ゼミナールⅠおよびⅡのうちで、必ず1回は英語の文献を用いること。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標			
		1週	ガイダンスの実施				
		2週	特別研究に関連した文献調査テーマの決定	与えられる文献調査テーマに従って、文献調査できる。			
		3週	特別研究に関連した文献調査	与えられる文献調査テーマに従って、文献調査できる。			
		4週	特別研究に関連した文献調査	与えられる文献調査テーマに従って、文献調査できる。			
		5週	特別研究に関連した文献調査	与えられる文献調査テーマに従って、文献調査できる。			
		6週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。			
		7週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。			
	2ndQ	8週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。			
		9週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。			
		10週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。			
		11週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。			
		12週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。			
		13週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。			
		14週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。			
		15週	調査した文献の内容について整理して発表、および討論	文献の内容について整理し発表でき、かつ討論できる。			
16週							
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	文献調査プレゼンテーション				その他	合計	
総合評価割合	100	0	0	0	0	100	

基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
專門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	電子情報システム工学特別演習
科目基礎情報					
科目番号	0036	科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	電子情報システム工学専攻	対象学年	専2		
開設期	後期	週時間数	後期:4		
教科書/教材	参考書:『ロボットレースによる 組み込み技術者養成講座』ETロボコン実行委員会 毎日コミュニケーションズ 参考書:『Maximum Lego Nxt』Bagnall Variant Press 参考書:『マインドストーム・プログラミング入門』B. Bagnall CQ出版				
担当教員	天元 宏,林 裕樹,土江田 織枝,中島 陽子,佐藤 英樹,高橋 晃,渡邊 駿,柳川 和徳,本間 宏利,大槻 典行,鈴木 未央,佐川 正人				
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野で履修してきた知識をもとに、課題を解決することができる。</li> <li>・自発的に計画、遂行でき、課題の解決策を見出すことができる。</li> <li>・自分たちのアイデアを実現化する技術能力と企画能力を身に付ける。</li> <li>・製作計画や問題解決をメンバーで協力して遂行できる能力を養う。</li> </ul>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1					
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 D 学習・教育到達度目標 E JABEE d-3 JABEE e JABEE h					
教育方法等					
概要	マインドストームを用いたロボット製作を通して、プロジェクトの進め方、まとめ方を学ぶ。アイデアの設計図化とロボット製作、プログラミング作業、テスト運転を通して技術能力と企画能力を身に付ける。 釧路高専目標: D(50%), E(50%)、JABEE目標: d-2-c, e, h				
授業の進め方・方法	計画書および最終報告書(60%:問題点の把握、独創性、論理性)、製作物の評価(30%:提案書諸元の実現、機械としての性能)、プレゼンテーション(10%:説明能力、質疑応答)などにより総合的に判断し、60点以上を合格とする。				
注意点	<p>ロボット製作には、プログラミング、制御工学、計測工学、電子回路、コンピュータなどの広範囲な知識が必要とされる。関連分野の授業内容を確認しておくこと。</p> <p>履修にあたっては、一般的な信頼性管理工学の基礎知識があることが望ましい。</p> <p>ロボット製作というプロジェクトを通して、与えられた制約の中での仕事の進め方、まとめ方を学ぶ。課題解決へ向けてメンバー全員が協力して進めるために報告・連絡・相談を密に行うよう努めること。</p> <p>本科目は学修単位科目であるため、授業時間担当の自主学習(授業の予習・復習を含む)を行う必要がある。</p>				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンスとレゴNXT説明 (1回)	ロボット製作とプロジェクトについて理解できる。また、プログラム総合開発環境のBricxCCの使い方を理解し、NXC言語でプログラム作成ができる。	
		2週	NXC言語プログラミングと基本課題の製作 (1回)	NXC言語により、ロボットを制御することができる。	
		3週	応用課題1の製作 (2回)	課題の解決策を見出すことができる。課題解決へ向けた企画を立てることができる。	
		4週	応用課題1の製作 (2回)	設計・製作・作業中のトラブルなどに対して自発的に解決を試みることができる。	
		5週	発表、コンテスト (1回)	設計・製作・作業・実行結果などについてプレゼンテーションできる。	
		6週	応用課題2の製作 (4回)	設計・製作・作業中のトラブルなどに対して自発的に解決を試みることができる。	
		7週	応用課題2の製作 (4回)	設計・製作・作業中のトラブルなどに対して自発的に解決を試みることができる。	
		8週	応用課題2の製作 (4回)	設計・製作・作業中のトラブルなどに対して自発的に解決を試みることができる。	
	4thQ	9週	応用課題2の製作 (4回)	設計・製作・作業中のトラブルなどに対して自発的に解決を試みることができる。	
		10週	発表、コンテスト、まとめ (1回)	設計・製作・作業・実行結果などについてプレゼンテーションできる。	
		11週	応用課題3の製作 (4回)	設計・製作・作業中のトラブルなどに対して自発的に解決を試みることができる。	
		12週	応用課題3の製作 (4回)	設計・製作・作業中のトラブルなどに対して自発的に解決を試みることができる。	
		13週	応用課題3の製作 (4回)	設計・製作・作業中のトラブルなどに対して自発的に解決を試みることができる。	
		14週	応用課題3の製作 (4回)	設計・製作・作業中のトラブルなどに対して自発的に解決を試みることができる。	
		15週	発表、コンテスト、まとめ (1回)	設計・製作・作業・実行結果などについてプレゼンテーションできる。	

		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	創造特別実験Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0037		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	実験		単位の種別と単位数	学修単位: 1			
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	前期:3			
教科書/教材	教科書: 授業開始時にプリントを配布する。参考書: 『理科系の作文技術』 木下是雄、中公新書参考書: 『いかにし て実験をおこなうか』 重川秀実、丸善出版参考書: 『工科系の物理学実験』 続馨、学術図書出版社						
担当教員	中島 陽子,佐藤 英樹,大前 洗斗						
到達目標							
仮説をたて、それに基づいた手法を考案し完成させることができる。 成果を正しく論理的な日本語で報告書にまとめることができる。 集団の中での役割や責任を理解し、自ら進んで物事に取り組むことができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)		
評価項目1	仮説をたて、それに基づいた手法を考案し臨機応変に変更を加えながら完成させることができる。		仮説をたて、それに基づいた手法を考案し完成させることができる。		仮説をたて、それに基づいた手法を考案し完成させることができない。		
評価項目2	成果を的確にまとめ正しく論理的な日本語で報告書にまとめることができる。		成果を正しく論理的な日本語で報告書にまとめることができる。		成果を正しく論理的な日本語で報告書にまとめることができない。		
評価項目3	周りの状況を把握し、自分の役割・責任を理解し、主体的に行動できる。		集団の中での役割や責任を理解し、自ら進んで物事に取り組むことができる。		集団の中での役割や責任を理解し、自ら進んで物事に取り組むことができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 D JABEE d-2							
教育方法等							
概要	専攻にかかわらず工学の基本的テーマについて実験を行う。仮説の検証やデータの解釈について、工学全般に通用する方法論を身につける。様々な専攻の学生とチームを組むことで、他分野での思考法や工学横断的な実験技法を身につける。						
授業の進め方・方法	3班(6~8名で構成)に分かれ、3つの課題の実験(各4回)をローテーションで行う。最後の2回で、実験内用について発表会を行う。各自、筆記用具、関数電卓、実験ノート(A4版)、定規を持参すること。グラフ用紙(方眼、片対数、両対数)については、別途指示する。成績は、各課題評価の平均(80%)+プレゼンテーション評価(20%)で、60点以上を合格とする。各課題評価は、提出された報告書により行う。プレゼンテーション評価は、複数教員による評価とする。特別実験は、専門以外の周辺分野や境界領域の技術、知識を得る良い機会であるので、積極的に参加して欲しい。						
注意点	各種の状況によって、内容等を変更する場合がある。						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	1. ガイダンス (2回)	・ 実験の主旨とプロジェクト運営の基礎を理解し、主体的に実験することができる。			
		2週	2. 発展的課題-I (4回)	・ 基本的な測定器の原理を理解し、操作できる。			
		3週	3. 発展的課題-II (4回)	・ 仮説を立て、主体的に実験を計画することができる。			
		4週	4. 発展的課題-III (4回)	・ データを収集、解析することができる。			
		5週		・ 解析結果を考察し、仮説を検証することができる。			
		6週		・ 検証した結果をもとに、さらなる検討を実施することができる。			
		7週					
		8週	前期中間試験:実施しない				
	2ndQ	9週	5. 発表とまとめ (1回)	・ 実験で得られた成果を、プレゼンテーションできる。			
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週	前期末試験:実施しない				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	50	0	50
専門的能力	0	0	0	0	50	0	50

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	電子情報システム工学特別研究Ⅱ	
科目基礎情報						
科目番号	0038	科目区分	専門 / 必修			
授業形態	演習	単位の種別と単位数	学修単位: 8			
開設学科	電子情報システム工学専攻	対象学年	専2			
開設期	通年	週時間数	前期:8 後期:8			
教科書/教材	各指導教員の指示による					
担当教員	高 義礼					
到達目標						
論文調査などにより、研究の背景、社会のニーズなどを理解できる。課題解決を計画的に遂行できる。研究成果の社会への影響を考察できる。日本語による論理的な報告書作成とプレゼンテーション、英語による概要説明ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1						
評価項目2						
評価項目3						
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 B 学習・教育到達度目標 D 学習・教育到達度目標 E 学習・教育到達度目標 F 学習・教育到達度目標 G JABEE d-2 JABEE d-3 JABEE d-4 JABEE e JABEE f JABEE g						
教育方法等						
概要	研究の遂行を通して高度な専門知識や実験技術を修得し、継続的に学習する能力を育成する。研究・設計などの活動における知識や技術の必要性を認識する。さらに、研究遂行において修得した知識や技術をもとに創造性を発揮し、計画的に実行する能力、論文作成・研究発表により文章表現力、プレゼンテーション、コミュニケーション能力を育成する。					
授業の進め方・方法	特別研究は本科の卒業研究を含む3年間、あるいは、専攻科の2年間を通して一つの課題に取り組むものであり、長期間にわたる。指導教員の指示だけでなく、自発的に計画的に遂行することに心がけること。別紙の評価方法によって評価する。60点以上で合格である。					
注意点	長期にわたり、一つのテーマを追求するので、自発的な学習、創造性の発揮、計画的な遂行が重要である。指導教員との話し合いを密にし、定常的な学習・研究が必要である。					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	1. 応用的な研究課題の設定	関連する技術を調査できる。		
		2週	2. 関連する技術調査	特別研究論文を計画的に作成できる。		
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週	前期中間試験:実施しない			
前期	2ndQ	9週	3. 研究計画の立案	研究内容に沿って計画を立案できる。		
		10週	4. 研究環境の再構築	研究に必要な環境を整備・構築できる。		
		11週				
		12週				
		13週				
		14週				
		15週				
		16週	前期期末試験:実施しない			
後期	3rdQ	1週	5. 実験および結果の整理	研究に必要な実験ができる。		
		2週	6. 実験結果とシミュレーション結果の比較	実験から得られた結果と理論との比較ができる。		
		3週	7. 履修計画書の作成	学位授与申請書の作成ができる。		
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週	後期中間試験:実施しない			
	後期	4thQ	9週	8. 検討及び考察	実験結果の論理的な考察ができる。	
			10週	9. 実験結果と考察、まとめ	研究論文を計画的に作成できる。	
			11週	10. 研究論文の作成と発表	研究成果を図、表を用いて纏めて発表することができる。	
			12週	11. 成果要旨等の作成	学位授与の申請ができる。	
			13週			
			14週			

		15週					
		16週	後期期末試験:実施しない				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週	
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	エネルギー変換工学各論
科目基礎情報					
科目番号	0039		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書:「資源の熱エネルギー変換と環境汚染」(工業調査会) 参考書:「実験でわかるエネルギーと環境」(秀和システム) 参考書:「一般気象学(第2版)」(東京大学出版会) 参考書:「電気エネルギー基礎」(オーム社)				
担当教員	佐川 正人				
到達目標					
エネルギーと文明の発展について記述することができる。地球温暖化とエネルギーとの関係を区術することができる。新エネルギーについて記述することができる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1		中東戦争とエネルギーとの関係を記述できる。化石燃料を燃やした場合の各種ガスの発生量を計算できる。核分裂によるエネルギー計算ができる。太陽光発電に必要な地域環境について記述することができる。再生可能エネルギーについて記述することができる。	石炭を燃やした場合のCO2発生量を計算できる。ウラン燃料と石炭とのエネルギー比較ができる。	石炭を燃やした場合のCO2発生量を計算できない。ウラン燃料と石炭とのエネルギー比較ができない。	
評価項目2					
評価項目3					
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標 D JABEE d-1					
教育方法等					
概要	現代は、そのエネルギーの中でも電気エネルギーが重要な役割を担っている。また、エネルギーの効率性・経済性・安定性の課題解決が不可欠であると共に環境面での課題も重要である。本授業は、電気の発電から消費までを環境面も総括してエネルギーに関する基礎と応用技術を学習する。新エネルギー発電技術について周辺知識も含め学習し最新動向に関する知識を習得する。同時に簡単な地域の環境について解析する能力を身につける。				
授業の進め方・方法	中間試験は実施する。プリントは再配布しない。遅刻は認めず欠席とする。マスコミで報道されるエネルギー関連・環境関連の動きについても授業に取り入れるので積極的に情報収集すること。新エネルギーとは地域環境に左右され、CO2削減目標とは地球規模での環境問題である。このため、地域環境・地球環境について半年間持続して関心を持てることが必須。学生の人数が3人以上では「輪読」形式を採用する場合がある。 合否判定：定期試験2回の合計点が120点以上であること。 最終判断：最終評価＝合否判定の点数(100点換算)				
注意点	『環境にやさしいエネルギー』というモノについて再考してみよう。なぜCO2を削減しなければならないのか、H2Oならばいいのか、などマスコミの言葉に踊らされることなく、科学者の視点からもう一度考えてみては？プリントの配布は一度のみ。中間試験は実施する。選択科目なので実力に応じて履修届を提出しましょう。若いときの時間を無駄にすることなく計画的に。特に遅刻をする学生は単位修得は不可能です。				
授業の属性・履修上の区分					
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンスと今後の方針について	今後の方針について理解できる	
		2週	エネルギーと文明(1回)	日本と世界のエネルギー消費の歴史と現状が理解できる。	
		3週	エネルギー変換技術概要(1)	エネルギー変換技術概要が理解できる	
		4週	エネルギー変換技術概要(2)	エネルギー変換技術概要が理解できる	
		5週	化石燃料と原子力のエネルギー変換技術の概要(1)	化石燃料と原子力のエネルギー変換技術の概要が理解できる	
		6週	化石燃料と原子力のエネルギー変換技術の概要(2)	化石燃料と原子力のエネルギー変換技術の概要が理解できる	
		7週	太陽光発電	太陽光発電について理解できる。	
		8週	風力発電	風力発電について理解できる	
	2ndQ	9週	燃料電池	燃料電池について理解できる	
		10週	海洋エネルギー発電	海洋エネルギー発電について理解できる	
		11週	電気エネルギー利用(1)	電気エネルギー利用について理解できる	
		12週	電気エネルギー利用(2)	電気エネルギー利用について理解できる	
		13週	『京都議定書』から考えるエネルギー利用	『京都議定書』から考えるエネルギー利用について理解できる	
		14週	地球のエネルギー収支と『地球温暖化』	地球のエネルギー収支と『地球温暖化』について理解できる	
		15週	地域の温暖化現象	地域の温暖化現象について理解できる	
		16週	前期期末試験:実施する		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	アナログ高周波回路設計		
科目基礎情報							
科目番号	0040		科目区分	専門 / 選択			
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専2			
開設期	前期		週時間数	2			
教科書/教材	テキスト: 資料を配布, 参考書: 横島一郎, 高周波測定技術の基礎 ~Sパラメータ入門~リアライズ理工センター						
担当教員	高 義礼						
到達目標							
1) 分布定数回路の考え方を修得し, 伝送線路上の電圧・電流分布を計算できる. 2) トランジスタの高周波等価回路が描け, 増幅度などの増幅回路の諸特性を計算できる. 以上の事柄を習得することにより電子工学における基礎知識を得, それらに応用する能力を身につける.							
ループリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	分布定数回路の考え方を修得し, 伝送線路上の電圧・電流分布を十分に計算できる.		分布定数回路の考え方を修得し, 伝送線路上の電圧・電流分布を計算できる.		分布定数回路の考え方を修得し, 伝送線路上の電圧・電流分布を計算できない.		
評価項目2	トランジスタの高周波等価回路が描け, 増幅度などの増幅回路の諸特性を十分に計算できる.		トランジスタの高周波等価回路が描け, 増幅度などの増幅回路の諸特性を計算できる.		トランジスタの高周波等価回路が描け, 増幅度などの増幅回路の諸特性を計算できない.		
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 D JABEE d-1							
教育方法等							
概要	近年, 身の回りの多くの電子機器がマイクロ波帯におよぶ高周波信号によって制御されている. 高周波の電気回路を考える場合, 抵抗やインダクタ, キャパシタといった要素を集中定数として考えることができず, いわゆる分布定数回路としての取扱が要求される. 本科目では, まず, 分布定数回路における進行波・反射波・透過波の取り扱いを通して電圧・電流分布の求め方を身につける. 次に, これらの基礎知識を基にしてトランジスタの高周波等価回路の求め方を学び, アナログ高周波回路設計の基本を修得する. 本授業は本科の電気回路の授業と密接な関連がある.						
授業の進め方・方法	授業中に適宜問題を出すので, 電卓を用意すること. 電気回路, 電子回路, 電磁波工学の基礎的内容が必要となるので, 復習しておくこと. 受講者は学修単位であることを意識し, 自学自習につとめること. 合否判定: 2回の定期テストの平均点が60点 (100点満点中) を越えていること. 最終評価: 合否判定と同じ. 不合格者は補習をおこなったのち再試験をおこなう. 再試験で60点以上の者を合格とする.						
注意点	電気回路, 電磁回路, 電磁波工学などの基礎的な知識が必要になります.						
授業の属性・履修上の区分							
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	授業ガイダンス				
		2週	電磁波と電気回路	高周波回路の特質を理解する.			
		3週	伝送線路	高周波回路の特質を理解する.			
		4週	伝送線路	伝送線路上の電圧・電流分布を計算できる.			
		5週	伝送線路	伝送線路上の電圧・電流分布を計算できる.			
		6週	反射と定在波	反射係数を計算できる. 定在波について説明できる.			
		7週	反射と定在波	反射係数を計算できる. 定在波について説明できる.			
		8週	反射と定在波	反射係数を計算できる. 定在波について説明できる.			
	2ndQ	9週	反射と定在波	反射係数を計算できる. 定在波について説明できる.			
		10週	伝送電力	入射波・反射波の電力や負荷での消費電力を計算できる.			
		11週	伝送電力	入射波・反射波の電力や負荷での消費電力を計算できる.			
		12週	トランジスタ高周波等価回路の求め方	高周波におけるトランジスタの等価回路が描ける.			
		13週	トランジスタ高周波等価回路の求め方	高周波におけるトランジスタの等価回路が描ける.			
		14週	増幅回路における諸特性の計算	等価回路を用いて増幅回路の増幅度など諸特性を計算できる.			
		15週	増幅回路における諸特性の計算	等価回路を用いて増幅回路の増幅度など諸特性を計算できる.			
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	試験				その他	合計	
総合評価割合	100	0	0	0	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	

專門的能力	100	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	ネットワークデザイン
<b>科目基礎情報</b>					
科目番号	0041		科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	電子情報システム工学専攻		対象学年	専2	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書: 毎回資料を配布 (参考書): トップダウンネットワークデザイン Priscilla Oppenheimer 著コムサス 訳 ソフトバンクパブリッシング、インフラ/ネットワークエンジニアのためのネットワーク技術&設計入門 みやたひろし著 SBクリエイティブ、インフラ/ネットワークエンジニアのためのネットワーク・デザインパターン 実務で使えるネットワーク構成の最適解27 みやたひろし著 SBクリエイティブ				
担当教員	高橋 晃				
<b>到達目標</b>					
与えられた要件を満たす 中規模のネットワークの設計ができる					
<b>ループリック</b>					
	理想的な到達レベルの目安(優)		標準的な到達レベルの目安(良)		未到達レベルの目安(不可)
評価項目1	与えられた要件を満たす、効率的で十分に実現できるネットワークの複数の提案書の作成ができる。予算 (イニシャルコスト、運用コスト)、機器の選定、アドレス設計		与えられた要件を満たす、効率的で十分に実現できるネットワークの1つの提案書の作成ができる。予算 (イニシャルコスト、運用コスト)、機器の選定、アドレス設計		与えられた要件を満たす、効率的で十分に実現できるネットワークの1つの提案書の作成ができない
<b>学科の到達目標項目との関係</b>					
学習・教育到達度目標 D JABEE d-1					
<b>教育方法等</b>					
概要	インターネットはもはやライフラインの1つとして私達の生活の一部である。本科目では、インターネットの通信原理を理解し、ルーティングやVLANなどの基礎的な技術について学び、与えられた要件を満たす、中小規模のネットワークの設計の提案書を作成できることを目標とする。				
授業の進め方・方法	2進数、16進数、ビット演算(AND、OR、NOT、XOR) について復習しておくこと 指定した実習課題を提出することが単位認定の必要条件とする。 その上で 定期試験60%、実習課題40% として 60% 以上で合格とする。 再試験は必要条件を満たした上で 60% 以上で合格とする。 コンピュータネットワークで学習する、OSIの7レイヤー、ARPのしくみを理解していることが望ましいが、これらの確認から入るので教居は高くはないはず。実習課題に真剣に取り組んで下さい。				
注意点	OSIの7レイヤー、ARPのしくみを理解していることが望ましいが、これらの確認から入るので、最低限 2進数、16進数、ビット演算(AND、OR、NOT、XOR) の知識があれば履修可能である。試験以外の、演習問題やレポートは相互に相談して理解を深めることを推奨する。				
<b>授業の属性・履修上の区分</b>					
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input checked="" type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応	
<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業					
<b>授業計画</b>					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	OSIの7レイヤ1-3	OSIの7レイヤ1-3 について概要を説明できる	
		2週	OSIの7レイヤ3-4	OSIの7レイヤ4-7 について概要を説明できる	
		3週	ARP	インターネットの通信のしくみが分かる。ARPについて仕組みを説明できる	
		4週	SUBNET	IPアドレス、サブネットについて理解し、適切なサブネットの設計ができる	
		5週	VLAN	ポートVLAN、タグVLANについて使い分けができる	
		6週	スタティックルート	スタティックルートでLANのルーティングができるスタティックルートで	
		7週	RIP	RIPのルーティングプロトコルを理解し、設定ができる	
		8週	前期中間試験:実施しない		
	2ndQ	9週	VLANルーティング	L3スイッチによるタグVLANを使ったLANの設計ができる	
		10週	ベンダー調査	ネットワーク機器のベンダーの調査、目的にあった機器を選定できる	
		11週	キャリア調査	ネットワークキャリアの調査、目的にあったキャリア、サービス機器を選定できる	
		12週	LANの設計 1	与えられた要件のネットワークの設計 要件についての考察	
		13週	LANの設計2	与えられた要件のネットワークの設計 キャリア、機器の選定	
		14週	LANの設計3	与えられた要件のネットワークの設計 コストの算出、見積書の作成	
		15週	LANの設計4	与えられた要件のネットワークの設計 提案書としてまとめる	
		16週	前期末試験:実施する		
<b>モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標</b>					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	60	0	0	0	40	0	100